

令和4年度（2022年度）
教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検
及び評価の結果についてに関する報告書

令和5年（2023年）8月

東海市教育委員会

目 次

I	点検・評価の目的と概要	1
II	教育長及び教育委員会委員の活動状況	2
III	外部有識者からの意見等	5
	1 総合計画に基づくまちづくりに関する評価	
	2 東海市教育ひとづくり審議会における意見等	
IV	教育委員会における検証・評価	7
	1 学校教育	
	2 社会教育	
	3 文化・芸術	
	4 スポーツ	
	5 まとめ	
V	資料	
	分野別成果動向一覧表	14
	施策10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる	16
	施策11 学校、家庭、地域が連携して子どもの健全な成長を支える	22
	施策12 青少年が健全で心豊かに成長できる環境をつくる	25
	施策13 マナーが守られ思いやりにあふれる地域をつくる	28
	施策14 楽しみや生きがいを感じるまちをつくる	31
	施策15 だれもが気軽にスポーツを楽しむ元気なまちをつくる	34
	施策16 文化に親しみ心豊かなまちをつくる	37
	施策17 郷土の歴史や文化を大切に継承する	40
	令和4年度（2022年度）教育委員会主要事業点検・評価表	43

I 点検・評価の目的と概要

効果的な教育行政の推進と、その状況の住民への説明責任を果たすため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づいて、教育委員会が令和4年度（2022年度）に実施した事務・事業の管理及び執行の状況について点検及び評価を行った。

点検及び評価としては、平成26年度（2014年度）より始まった第6次東海市総合計画に関して、有識者、まちづくりを担う各種団体を代表する者等で構成する「東海市まちづくり評価委員会」による専門的・客観的な評価の関係業務部分を活用することを基本とし、併せて、教育委員会が実施した施策の主要事業における自己評価を、教育委員会の諮問に応じ、教育に関する重要事項について調査審議等を行う「東海市教育ひとづくり審議会」に付議し意見聴取を行った。

それらの意見を踏まえた上で、学校教育、社会教育、文化・芸術、スポーツの4分野に分け、教育の振興に関する基本的計画である「とうかい教育夢プランⅡ」や、市全体の文化創造の基本的計画である「東海市文化創造プラン」も含めて、最終的な教育委員会としての検証・評価を行った。

本報告書は、これら外部有識者や市民等による教育に関する幅広い知見の活用を図った点検・評価結果について公表するものである。

II 教育長及び教育委員会委員の活動状況

1 教育長及び教育委員会委員

- (1) 教育長及び教育委員会委員の在任状況（令和5年3月31日現在）

教育長：2期目

教育委員会委員：3期目 1人、2期目 1人、1期目 3人

合計5人（平均年齢58歳）

- (2) 教育長及び教育委員会委員（令和5年3月31日現在・敬称略）

職名	氏名
教育長	加藤 千博
教育委員会委員（教育長職務代理者）	石川 真理子
教育委員会委員	木原 鈴江
教育委員会委員	久野 友士
教育委員会委員	木村 敏幸
教育委員会委員	村上 直人

- (3) 教育委員会の開催状況

定例会：12回（要望事項0件）

臨時会：2回

議事件数：181件（議案34件、承認13件、報告事項134件）

- (4) 教育長及び教育委員会委員の主な活動

教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表するため、教育・文化・スポーツ等に関する事務を処理し、教育委員会各課等の実施する事業へ参加する他、市主催の事業等に参加し、教育委員会の代表として幅広く活動することで、教育委員会職員や市長部局職員だけでなく、市民や市と関係のある方々と意見交換も行い、関係構築に勤めた。

教育委員会委員は、上記の教育委員会定例会・臨時会の他、教育委員会各課等の事業に月平均4回出席し、意見を述べるなど積極的に活動し、教育委員会全体の活性化に貢献した。特に1年間の東海市の教育の柱となる「教育基本方針」の策定に向けては、教育委員会定例会の前後に教育委員会各課等の長と施策や事業の課題について協議し、方針の決定に大きな役割を果たした。また、市内小中学校に対しては、各校の実施する学校訪問への参加を自主的に増やし、学校現場をしっかりと見た上で教職員へ意見や助言を述べるよう勤めた。

その他、教育委員会は市長部局と総合教育会議において、「細井平洲先生の教えと郷土の歴史の継承の取り組み～ふるさとを愛する心を育み、互いを思いやる心を育てる教育～」について協議し、子どもが楽しく学び、活動することができる

学校の実現に努めた。

また、知多地方教育事務協議会等へ参加し、他市町との情報交換にも努めた。
教育長及び教育委員会委員が出席した主な事業は次のとおりです。

令和4年度（2022年度）教育委員会の主な事業一覧

開催月	事業名
4月	教職員管理職辞令伝達式
	知多地方教育事務協議会
	小中学校入学式
	平洲会評議員会
5月	愛知県市町村教育委員会連合会監事会・理事会
	知多地方教育事務協議会
	優良児童生徒顕彰式・学思行賞表彰式
	義務教育問題研究協議会
	全国市町村教育委員会連合会定期総会
	愛知県教科用図書選定審議会
	平洲祭
6月	市内小中学校訪問
7月	愛知県市町村教育委員会連合会・総会・研修会
	米沢市中中学生表敬訪問・対面式
8月	第5回東海市ものづくり道場
	小中学校PTA連絡協議会教育懇親会
	第1回総合教育会議
	教職員全体研修会
9月	知多教育懇談会
	小学生親善交流事業（釜石市）報告会
10月	知多地方教育事務協議会
	教育事務協議会委員研修会
	沖縄体験学習報告会
	教職員組合教育懇親会
11月	先進地視察（米沢市・文部科学省）
	総合計画審議会
12月	沖縄市親善交流事業表敬訪問
	東海ハーフマラソン2022
	第2回総合教育会議
	市長への予算要望の会
	市町村教育委員会教育長・教育委員研究協議会
	総合計画審議会部会

1月	教育委員年頭挨拶
	20歳（はたち）の集い
	知多地方教育事務協議会
	大田小学校増築校舎内覧会
2月	東海市教職員表彰式
3月	小中学校卒業式
	知多地方教育事務協議会
	奨学金支給審査会
	小学生親善交流事業（米沢市）報告会
	退職教職員辞令交付式

(5) 教育委員会の活動の情報発信

教育長・教育委員会委員名簿、教育委員会事務局、学校の概要、教育委員会の施策及び事業、教育委員会定例会の会議録等を東海市のホームページや市の広報紙に掲載し、情報を提供している。

Ⅲ 外部有識者からの意見等

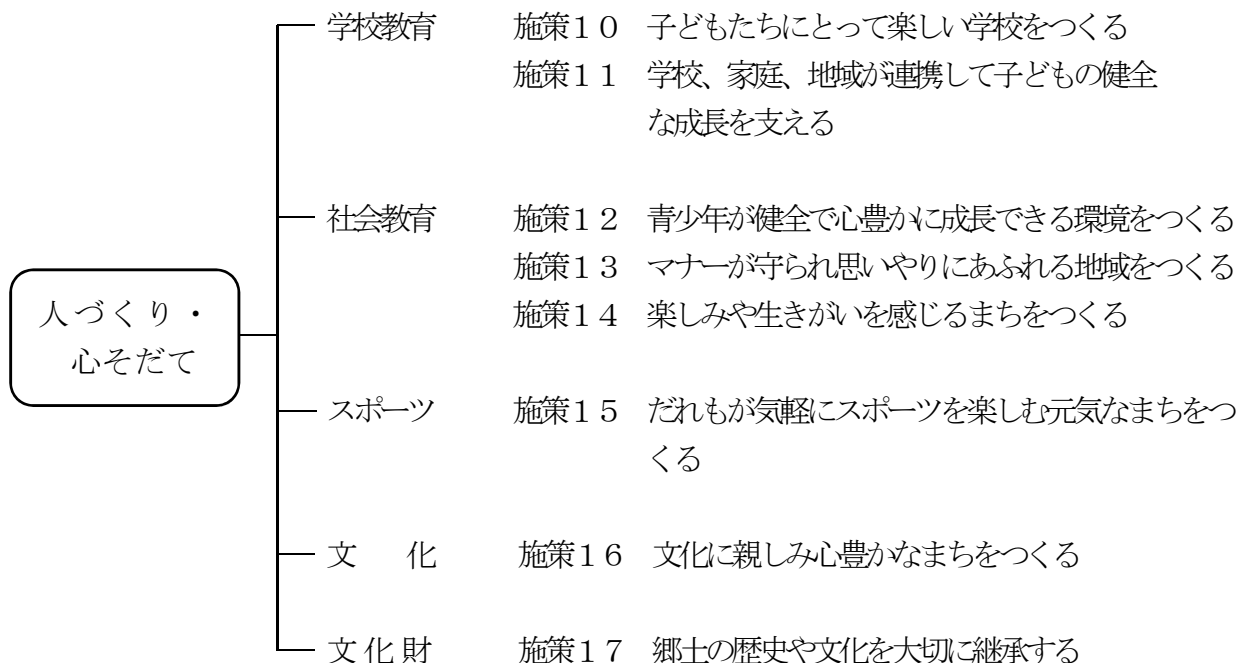
1 総合計画に基づくまちづくりに関する評価

平成26年度（2014年度）から第6次東海市総合計画がスタートし、「ひと 夢 つなぐ 安心未来都市」を将来の都市像として、その実現に向けて取り組みを行っている。その中で、教育関連については下記のとおりの方策体系となっており、それに対して、まちづくり指標の動向や、めざすまちの姿に向けた達成度及び方策の評価を、東海市まちづくり評価委員会に提出し、総合計画に基づくまちづくりに関する評価報告を受けた。

その結果、教育関連の「人づくり・心そだて」の方策の成果動向は、「順調」が1方策、「横ばい」が2方策、「順調でない」が5方策となり、分野全体の成果動向は、「順調でない」と評価する。

子どもたち一人ひとりが夢や希望を持って意欲的に学び、豊かな心を育むことができるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの取り組みにより、子どもやその家族が抱える課題を的確に捉え、その課題解決に向け、地域と連携した取り組みや不登校対策などの各方策の取り組みを充実させる必要がある。

また、楽しみや生きがいを持つことができるように、スポーツだけではなく文化的な活動や、伝統文化に触れ合う機会の創出に努める必要がある。



2 東海市教育ひとづくり審議会における意見等

教育委員会では、学識経験を有する者等で構成され、教育委員会の諮問に応じ、教育政策の重要事項に関する審議や、教育政策に対する意見を述べる「東海市教育ひとづくり審議会」を設置している。

令和4年度（2022年度）に実施した主要事業の状況について、P43～P73の点検・評価表に基づき報告を行い、東海市教育ひとづくり審議会委員から次の意見を受けた。

- ・ 出会いと体験の場を提供する各種事業について、東海市ならではの姉妹都市との交流事業であり、子どもにとって、非常に貴重な一生の思い出に残る事業であることから、東海市の強みとして、引き続き、推進して欲しい。
- ・ 小学校水泳授業民間施設活用事業について、とても暑い中、また、交通量が多い場所を小学生が歩いて民間プール等へ向かう現状について、時期やアクセス方法の見直しを検討して欲しい。
- ・ 不登校対策事業について、スクールソーシャルワーカーが市内全小中学校を網羅しており、問題発生時の対応は充実してきている中、今後は未然防止に力を入れて欲しい。
- ・ 放課後子ども総合プラン推進事業について、色々な種目の体験をきっかけとして、身近な地域のスクールや教室、スポーツ少年団等での継続的な活動に繋げて欲しい。
- ・ 東海ハーフマラソン開催補助事業について、本市には、フィギュアスケートの木原選手や競歩の山西選手などのオリンピック選手がいることから、東海市の知名度を上げる意味でもゲストランナーの招へいを検討して欲しい。

IV 教育委員会における検証・評価

1 学校教育

令和4年度(2022年度)における学校教育分野の主な事業としては、楽しく学校生活を送るための各種サポート事業と、新型コロナウイルス感染症の影響により予定どおり実施できなかった事業もあったが、社会の変化に対応できる力(たくましく生きぬく力)を養うための各種体験学習事業が挙げられる。

各種サポート事業では、児童生徒に対し必要な支援をするため、目的に応じて特別支援教育支援員及び障害児サポーター、読書活動サポーターを配置し、学校生活の支援の充実を図った。また、各種サポート事業以外にも不登校やいじめの原因解消と子どもたちが抱える課題の早期発見につなげるため、心の相談員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによりいつでも相談のできる、また、さまざまな観点から児童生徒の様子に気づくことができる環境の整備に努めた。

課題としては、特別な配慮を必要とする児童生徒が増加傾向にある中、人的な支援を継続し、最大限の効果が上がるため各種サポーター等の有効な配置について検討していく必要がある。

次に各種体験学習事業では、小学校の林間学習は1泊2日で実施をし、集団での自然体験活動を通してより良い人間関係を築くとともに、通常の学校生活とは異なる体験をすることで、心身ともに調和のとれた健全な育成を図った。

また、中学校の沖縄体験学習では、東海市と違った自然や文化体験を通して東海市を客観的に見つめるとともに、平和学習により命や平和の大切さを学ぶ機会とし、これらの体験を通して子どもたちが豊かな人間性を育てているものと認識している。

次に、国の「GIGAスクール構想」により児童生徒一人一台端末を活用した授業を令和3年度(2021年度)から行っており、それぞれ年次目標を定めながら進めている。そのような中で、ICT機器を活用した授業に教員が早く慣れ、より深い学びができる授業を行えるようにするため、ICT支援員を配置したり、ICT教育推進委員会を設置し有識者から助言を受けたり、学校間の情報交換を行ったりした。

とうかい教育夢プランⅡ(以下「夢プランⅡ」という。)の方向性との関連で見た場合、夢の姿1「子どもたちが笑顔にあふれて成長している」について、「不登校の児童生徒の割合」は、基準値、前年度数値から増となっており、本人の「無気力・不安の傾向」や学校での「いじめを除く友人関係をめぐる問題」を理由とするものが多くなっている。心の相談員やスクールカウンセラー等複数の職員が児童

生徒に関わるグループ支援を継続するとともに、令和2年度（2020年度）から配置をした社会福祉の専門的な知識を有するスクールソーシャルワーカーにより、関係機関と連携して支援に取り組んでいる。

また、「学校が楽しいと感じている児童生徒の割合」は、前年度とほぼ同水準で、「好きな授業がある児童生徒の割合」や「学校の授業がわかりやすいと答えた児童生徒の割合」についても高い割合を維持していることから、教員研修センターによる研修が教員の授業の工夫に効果をあげ、学校や授業を楽しんでいると感じさせているものと考えている。

続いて、夢の姿2「子どもたちが学びと体験をとおして志をもって成長している」については、林間学習や沖縄体験学習など体験をとおして子ども達のこころと身体が調和のとれた育成を図る取組みを行っている。次に「夢や目標を持っている児童生徒の割合」や「外国の生活や文化に興味がある児童生徒の割合」については前年度から低下しており、基準値と比較しても低下している状況である。これは新型コロナウイルス感染症の影響により、部活動や学校行事等の活動を縮小・自粛したことで、挑戦する意欲や能力を開発する機会が減少したことや、海外姉妹都市との交流が未実施であったことにより、夢や目標を描くことが難しくなったものと考えられる。体験学習事業や姉妹都市交流事業などにより、未来を担う子どもたちが新たな出会いや実体験を通じて将来の夢や目標につなげることができるよう、今後も「たくましく生きぬく力」を養う教育を推進していく。

2 社会教育

令和4年度（2022年度）における社会教育分野の主な事業としては、放課後子ども総合プラン推進事業及び図書館運営事業が挙げられる。

放課後子ども総合プラン推進事業の放課後児童健全育成事業では、多くの子どもたちに安全・安心な居場所を提供した。利用者は年々増加しており、市民のニーズに沿った展開がされていると認識している。

課題としては、放課後児童クラブの利用者数が著しく増加しているクラブがあるため、利用者の増加状況に応じて、クラブ数や実施場所の拡大、指導員の確保に努める必要がある。

次に図書館運営事業では、幅広い世代の市民に親しまれる図書館を目指し、市民向け講座の他、読み聞かせボランティアの協力による子ども向けイベント等を実施し、図書館をより身近に感じるきっかけとした。中央図書館を空調設備改修工事のため10月から4か月間休館したことにより貸出総数は前年度より減少したが、中央図書館用資料を横須賀図書館で貸出すなど対応し、横須賀図書館の貸出数は増加している。今後も市民が図書館をより身近に感じ、読書に親しむ機会

を確保することが重要であると認識している。

課題としては、来館困難等図書館の利用がしづらい市民の読書環境の確保や、読書意欲の低下が見受けられる若年層への情報発信などがあり、市民のあらゆる読書要望に応えられるように蔵書充実と環境整備をする必要がある。

夢プランⅡの方向性との関連で見た場合、夢の姿2「子どもたちが学びと体験をとおして志をもって成長している」について、家庭学習が十分でなく、学習習慣が身につけていない中学生を対象に、学習習慣を身に付けることで基礎学力の向上を支援する学習支援教室開催事業を市内2箇所で開催した。課題としては、徐々に参加希望生徒が増加しており、支援体制や方法などについて検討する必要がある。

夢の姿3「市民が思いやりの心をもち安心して暮らしている」について、子ども教室開催事業においては、令和4年度（2022年度）より小学校の課外活動廃止に伴い児童のスポーツ等体験機会を一部創出するため、原則土曜日に1教室を拡充して実施し子どもたちに様々なスポーツや文化活動の場を提供できた。また、ふれあい交流推進事業においては、異年齢の子ども同士や地域住民と子ども達等多世代交流の場を提供できた。家庭教育推進事業においては、保護者同士の交流が持てたり、子どものしつけやコミュニケーションの取り方などについて理解を深めたりするなど、家庭教育への意識を高めることができた。家庭教育推進事業の課題としては、家庭内等で保護者と子どもの会話やふれあいが増進する方法を伝え、保護者と子どもの良好な関係を築いた上で、正しいマナー等の教え、保護者自身も再確認することができる機会を提供していく必要がある。

続いて、夢の姿5「市民が地域を愛し、伝統や歴史が次世代につながっている」については、「郷土の歴史などに愛着を持っている人の割合」及び「15歳～30歳の若者のなかで、伝統文化を継承している団体に所属している人の割合」は、前年度と比較して、ほぼ横ばいで推移している。これは、細井平洲先生の遺徳顕彰、地域のお祭りをはじめとした伝統文化及び文化財等に触れる機会の提供を継続的に実施してきたことの成果が出ている一方で、伝統文化に関わる団体に所属する若者がその伝統文化の歴史等について理解せずに参加し、愛着につながりにくくなっているためと考えられる。今後は、郷土の歴史や文化に親しむ講座の参加者を、高齢者だけでなく、幅広い世代が関心を持ち、参加しやすい内容にするなどの工夫を凝らした事業実施に努めるとともに、伝統文化等の歴史等について所属している人への普及啓発にも取り組み、次世代に適切に継承がなされるよう努める必要がある。

続いて、夢の姿7「市民が世代を越えた交流や社会活動への参加をとおして、自らの可能性を広げ、地域づくりに貢献している」については、前年度と比較して、

新型コロナウイルス感染拡大防止のための制限が緩和されたため、地区公民館等活動推進事業及び地域サロンカフェ推進事業では、延べ開催回数、延べ参加者数ともに増加した一方、自主サークルの参加者の高齢化等に伴う活動規模の縮小などから、「生涯学習を行っている人の割合」は、横ばいで推移している。今後も引き続き、サークル活動への支援や生涯学習情報を発信するとともに、地域ニーズに対応した魅力ある講座等の実施に努める必要がある。

3 文化・芸術

文化芸術の発信・創造の拠点として東海市芸術劇場の開館以来、劇場の理念である「人づくり、にぎわいづくり、生きがいづくり」のために、自主文化事業として鑑賞事業を様々なジャンルで実施し、多くの市民が質の高い文化・芸術に触れることができた。また、育成事業の一つとして、平成28年（2016年）2月に活動を開始した東海市子どものオーケストラが東海市子どものオーケストラ育成基金を活用して、第4回定期演奏会を開催し、日頃の練習の成果を発表することができた。

夢プランⅡの方向性との関連で見た場合、夢の姿6「市民が多様な文化や優れた芸術にふれて、豊かな人間性を育てている」については、「文化・芸術活動を行っている人の割合」は横ばい傾向であるが、「市の文化施設で行われる文化・芸術事業への参加者数」は増加しており、優れた文化芸術にふれ、気軽に関わる機会が増えているものと考えられる。今後も継続して、文化振興事業を進めていく必要がある。

「文化創造プラン」における基本目標から実施内容を見た場合には、目標1「文化芸術への関心と感性が高まる」については、ホールでの公演だけでなく、気軽に文化芸術を発信・鑑賞する場として、劇場内のオープンスペースでミニコンサートの開催、館内壁面をギャラリーとして活用することにより、新たな文化芸術に出会う場としての役割を果たした。

続いて、目標2「だれもが身近に文化芸術に親しんでいる」については、0歳から鑑賞可能なコンサートを実施し、乳幼児や障害のある方など、通常の公演では劇場で鑑賞することが困難な市民に対し、文化芸術に触れる機会を提供することができた。また、小中学生劇場招待コンサートでは、子どもたちがプロの演奏を劇場で鑑賞することにより、大きな感動を得、文化芸術を身近に感じることもできた。さらに、出会いの教室やよしもと流楽しいコミュニケーションといったアウトリーチ事業を小学校で実施することにより、子どもを中心に文化芸術を享受できる機会を提供することができた。

続いて、目標3「多彩な文化芸術活動を行っている」については、劇場の稼働率

は、例年と比較し、新型コロナウイルス感染症の影響により利用の減少はあったものの、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら各練習室を中心に多彩な文化活動や発表の場として定期的に利用する団体・個人もあり、全体的に高い水準を維持している。

続いて、目標4「文化芸術を支える人とまちが育つ」については、技術力の向上と豊かな心と生きる力を育む「子どものオーケストラ」をはじめとする、これからの文化創造の担い手となる子どもたちに文化芸術活動によるひとづくりを推進した。また、市民参加による劇場の運営を進めるため、劇場の事業運営をサポートする市民スタッフを育成し、公演等の会場案内などを実施した。文化芸術に関わることでやりがいを創出し、文化芸術を支える担い手の育成が図られている。

以上のように、「文化創造プラン」に基づき各種事業を実施し、一定の成果はあげたと評価できるが、10年後、20年後の東海市が活力あふれるまちとなるよう、より一層充実を図りながら文化芸術事業を継続していく必要がある。今後の課題としては、多くの市民が文化芸術に親しむことができるよう、創造性豊かな事業を引き続き展開するとともに、様々な施策分野の事業と連携し、効果的に施策の推進を図る必要があると考える。

4 スポーツ

令和4年度(2022年度)は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の余波が残る中、東海ハーフマラソン大会を始めとする各種スポーツ事業を着実に実施することができた。特に、ふるさと大使の企業スポーツチームと連携し、市内12小学校の授業にアスリートを派遣する「スポーツ出前授業」や市民とふるさと大使が交流できるイベント「ふるさと大使等スポーツ連携交流事業 Fan!Fun!Fan!」を実施し、認知度を上げ、応援するとともに、市民のスポーツ機運を高めることができた。

また、本市スポーツ振興の指針となる「東海市スポーツ推進計画」の施策を推進するため、スポーツ関係団体、大学及び企業等で構成する「スポーツ推進会議」を設置し、各種団体が一体となって推進する「重点プロジェクト」など話し合いを進めた。

ハード面においては、市民体育館の老朽化に伴い、利用者の安全を確保するため、外壁改修や屋上防水工事、柔道場畳更新などを実施した。

課題としては、今後も市民、行政、各種団体等が連携し、各種スポーツ事業の充実を図るとともに、スポーツを支える指導者の確保や派遣に向けた体制を整備するなど、市民の自主的・継続的なスポーツ活動の推進に努める必要がある。

夢プランⅡの方向性との関連で見た場合、夢の姿4「市民がいつでもどこでも

スポーツを楽しむ、健康に暮らしている」については、「市民一人当たりのスポーツ施設の利用回数」及び「スポーツを実践している人の割合」は、ほぼ横ばいで推移しており、新型コロナウイルス感染症による行動制限の余波が残る中、市民が気軽に取り組めるスポーツの情報提供など、効果的なPRや環境づくりに努める必要がある。

引き続き、市民のスポーツに親しむ機会を増やせるよう、各種スポーツ団体と連携し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」視点での取り組みを進める必要がある。

5 まとめ

東海市教育委員会では、令和4年度（2022年度）教育委員会の主要事業について、「第6次東海市総合計画」に基づくまちづくりに関する評価を行う「東海市まちづくり評価委員会」及び学識経験を有する者等で構成する「東海市教育ひとづくり審議会」からの意見を踏まえ、点検・評価を実施した。

事業全体としては、第6次東海市総合計画と整合を図った、教育政策に関する基本的な計画として策定された「とうかい教育夢プラン II」に基づき、計画的に各事業に取り組んでいる。

今後は、この点検・評価における課題・改善点等の振り返りや、学識経験者等の知見を活かしながら、今後の社会情勢及び市民ニーズへの対応等も考慮しつつ、引き続き、教育委員会や関係主体との連携・協働を進め、より総合的かつ一体的に教育行政を推進する。

分野別成果動向一覧 第2章「人づくり・心そだて」

《施策別成果動向一覧》

節	番号	施策名	成果動向	まちづくり指標の推移						成果指標の推移							
				対基準値			対前年度			対基準値				対前年度			
				改善	横ばい・維持	悪化	改善	横ばい・維持	悪化	改善	横ばい・維持	悪化	比較不可	改善	横ばい・維持	悪化	比較不可
学校教育	10	子どもたちにとって楽しい学校をつくる	順調でない	1	0	1	0	0	2	2	1	6	0	1	0	8	0
	11	学校、家庭、地域が連携して子どもの健全な成長を支える	横ばい	1	0	1	2	0	0	3	0	1	0	2	0	2	0
社会教育	12	青少年が健全で心豊かに成長できる環境をつくる	順調	2	0	0	1	0	1	4	0	0	0	1	0	3	0
	13	マナーが守られ思いやりにあふれる地域をつくる	順調でない	0	0	1	1	0	0	0	0	3	0	2	0	1	0
	14	楽しみや生きがいを感じるまちをつくる	順調でない	0	0	1	0	0	1	1	0	3	0	3	0	1	0
スポーツ	15	だれもが気軽にスポーツを楽しむ元気なまちをつくる	順調でない	1	0	1	1	0	1	3	0	0	0	2	0	1	0
文化	16	文化に親しみ心豊かなまちをつくる	横ばい	0	0	1	0	0	1	2	0	1	0	2	0	1	0
文化財	17	郷土の歴史や文化を大切に継承する	順調でない	1	0	1	0	0	2	1	0	1	0	1	0	1	0

《まちづくり評価委員会の評価》

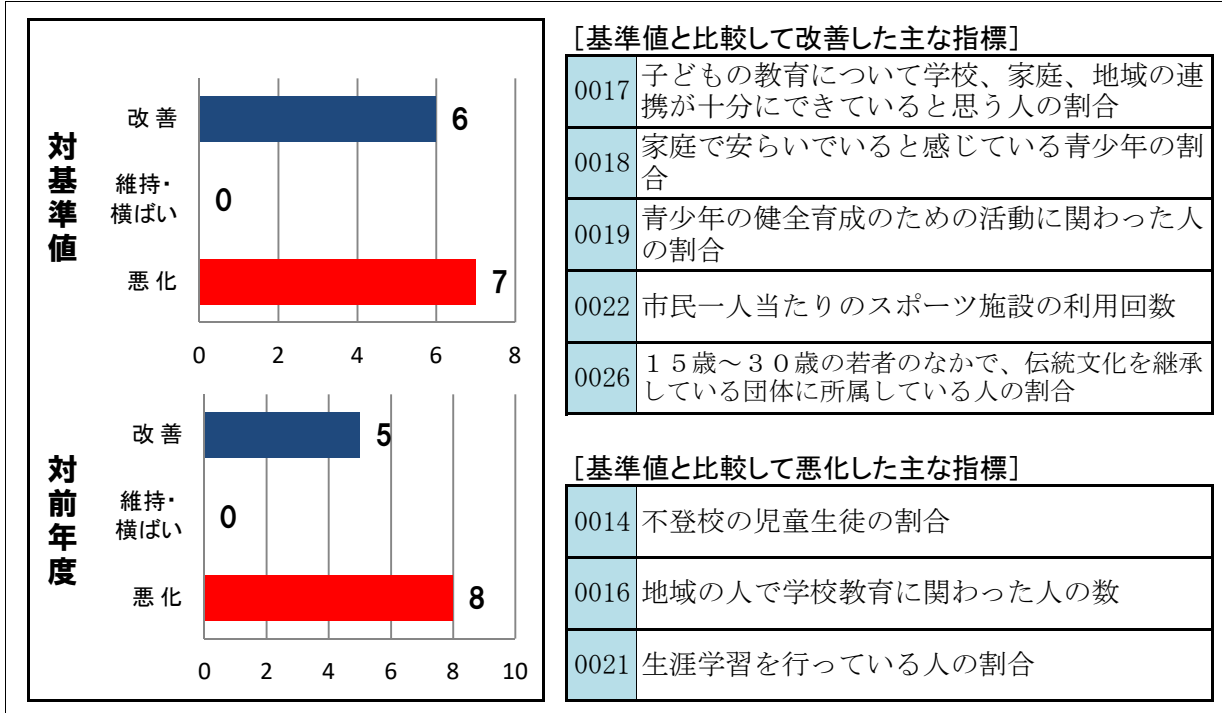
「人づくり・心そだて」分野では、まちづくり指標等の動向から判断して、施策の成果動向は、「順調」が1施策、「横ばい」が2施策、「順調でない」が5施策となり、分野全体の成果動向は、「順調でない」と評価する。

子どもたち一人ひとりが夢や希望を持って意欲的に学び、豊かな心を育むことができるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの取り組みにより、子どもやその家族が抱える課題を的確に捉え、その課題解決に向け、地域と連携した取り組みや不登校対策などの各施策の取り組みを充実させる必要がある。

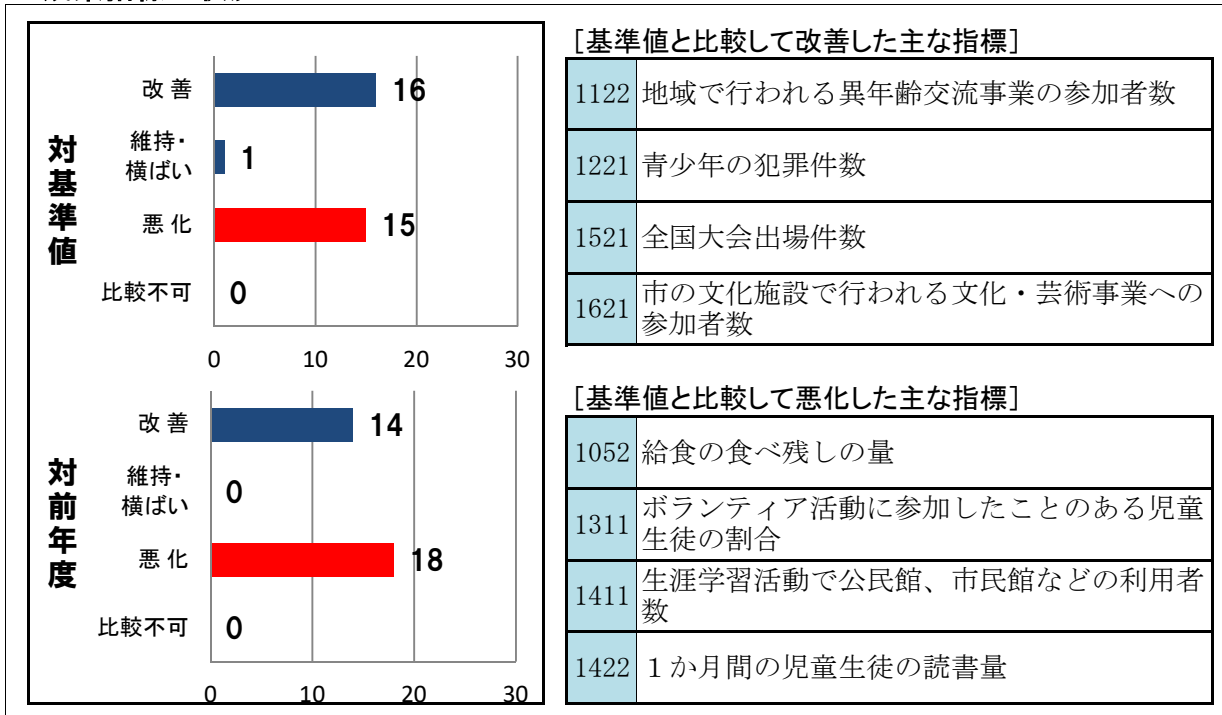
また、楽しみや生きがいを持つことができるように、スポーツだけではなく文化的な活動や、伝統文化に触れ合う機会の創出に努める必要がある。

- [施策10] まちづくり指標、成果指標の動向から「順調でない」と評価する。
- [施策11] まちづくり指標、成果指標の動向から「横ばい」と評価する。
- [施策12] まちづくり指標、成果指標の動向から「順調」と評価する。
- [施策13～15] まちづくり指標、成果指標の動向から「順調でない」と評価する。
- [施策16] まちづくり指標、成果指標の動向から「横ばい」と評価する。
- [施策17] まちづくり指標、成果指標の動向から「順調でない」と評価する。

《まちづくり指標の状況》



《成果指標の状況》



《第2章「人づくり・心そだて」指標の状況》

【まちづくり指標】「子どもの教育について学校、家庭、地域の連携が十分にできていると思う人の割合」など、基準値と比較して6指標、分野全体で46.2%が改善した。

一方、基準値以下となった指標は「不登校の児童生徒の割合」はじめ7指標（53.8%）となった。

【成果指標】「地域で行われる異年齢交流事業の参加者数」はじめ16指標、分野全体で50.0%が基準値より改善した。また、基準値以下となった指標は、15指標（46.9%）で、前年度より悪化した指標は、18指標（56.3%）となった。

章 02 人づくり・心そだて
 節 01 学校教育
 施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる

理念 いきいき

施策主管課【学校教育課】

めざすまちの姿

子どもたちにとって学校が楽しく、不登校児童生徒が少ない

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

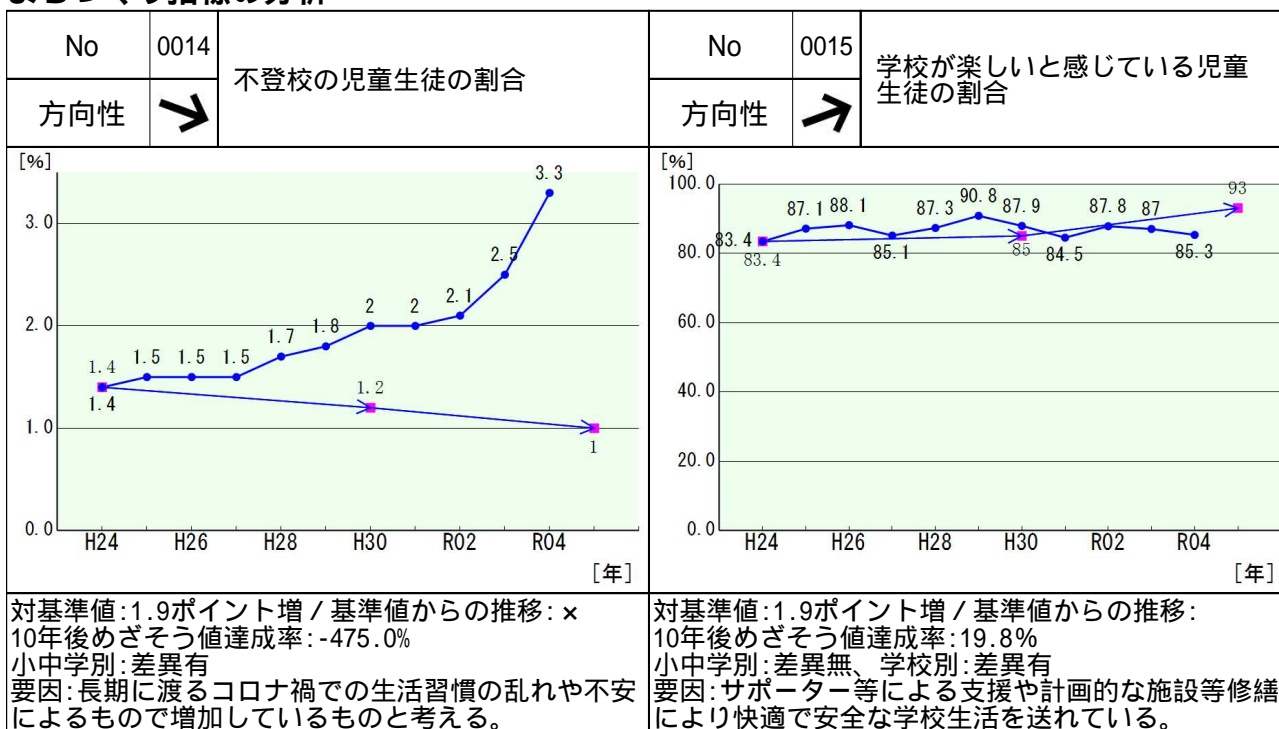
子ども一人ひとりが、確かな学力を身につけ、豊かな心を育む教育内容の充実に努めます。学校生活をとおして、人間として成長と発達を続けていく基盤となる力を養い、学校に楽しく通えるようにします。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	個性と能力が伸びる授業をつくる	438,862	436,423
02	いじめ・不登校対策を充実させる	35,017	33,239
03	快適で安全な学校生活を充実させる	3,635,245	3,496,398
04	出会いと体験の場を提供する	106,024	104,378
05	食の大切さと楽しさを理解させる	867,361	866,547
施策合計		5,082,509	4,936,985

まちづくり指標の分析



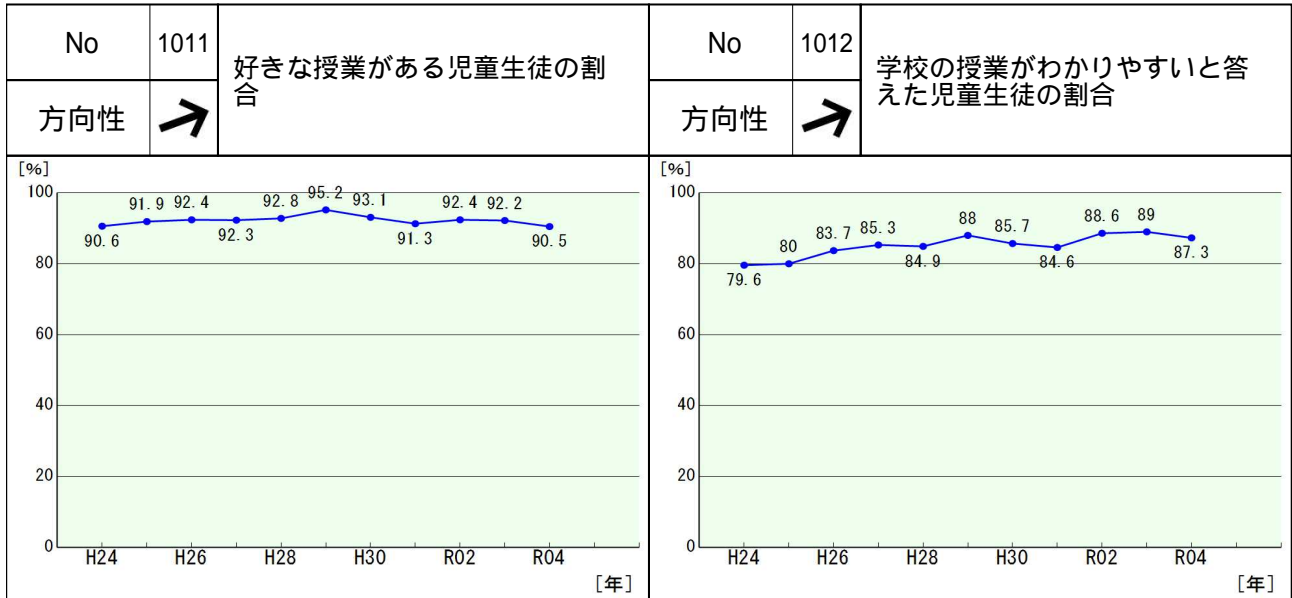
めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調でないとして評価する。
 「不登校の児童生徒の割合」は、基準値及び前年度からともに悪化しており、課題のある児童生徒の背景、ニーズの多様化や、長期に渡るコロナ禍での生活習慣の乱れや不安、中1ギャップが大きかったことが要因と考える。また、「学校が楽しいと感じている児童生徒の割合」は、基準値から横ばいであり、サポーター等による支援や計画的な施設等の修繕により安全な学校生活を送れていることも要因の一つと考える。
 引き続き、スクールソーシャルワーカー等と小・中学校が連携し、課題解決に向けた早期支援に努めるとともに、快適で魅力的な学校づくりへの取り組みを進めていく必要がある。

施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる
 単位施策 01 個性と能力が伸びる授業をつくる

単位施策主管課【学校教育課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

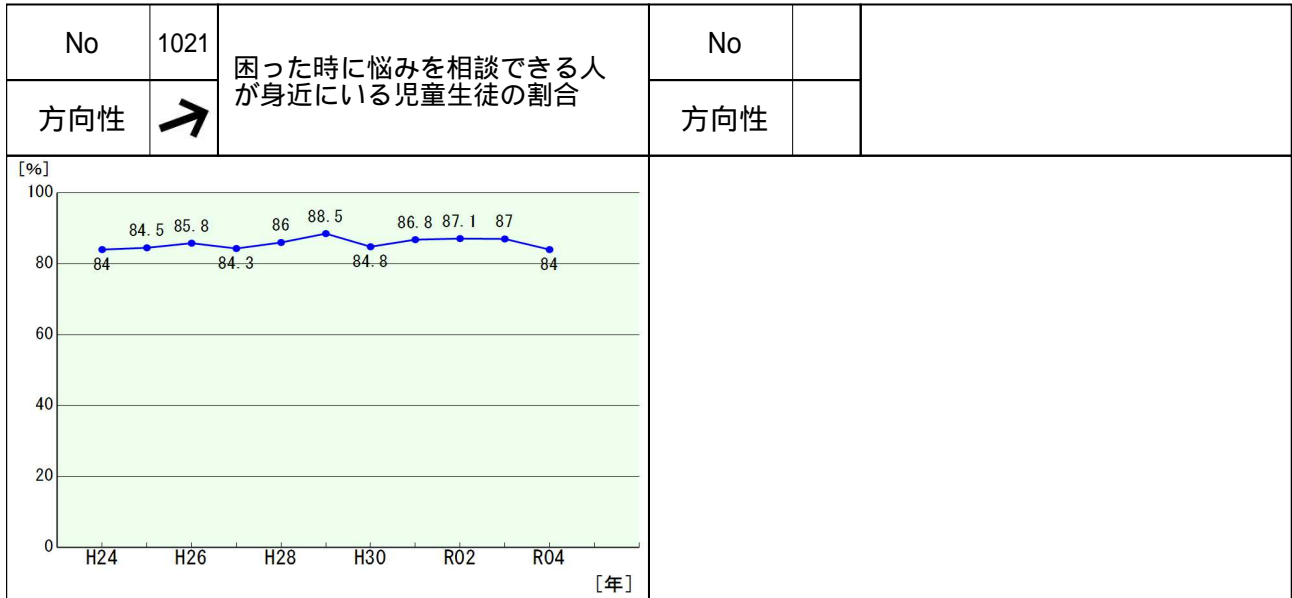
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 「好きな授業がある児童生徒の割合」は基準値から横ばい、「学校の授業がわかりやすいと答えた児童生徒の割合」は基準値を上回っている。これは、教職員のニーズに対応した、少経験者からベテランまで参加する幅広い研修を行い、教職員の資質向上が図られ、授業改善に向けた取り組みを実施したことにより、児童生徒が「好き、分かりやすい」と実感する授業につながったと考える。
 今後も児童生徒の学力向上に繋げるため、教職員のニーズや課題を把握し、それに応じた研修を企画し、専門性の高い講師の発掘に努め、教職員全体の指導力向上を図っていく。

施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる
 単位施策 02 いじめ・不登校対策を充実させる

単位施策主管課【学校教育課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

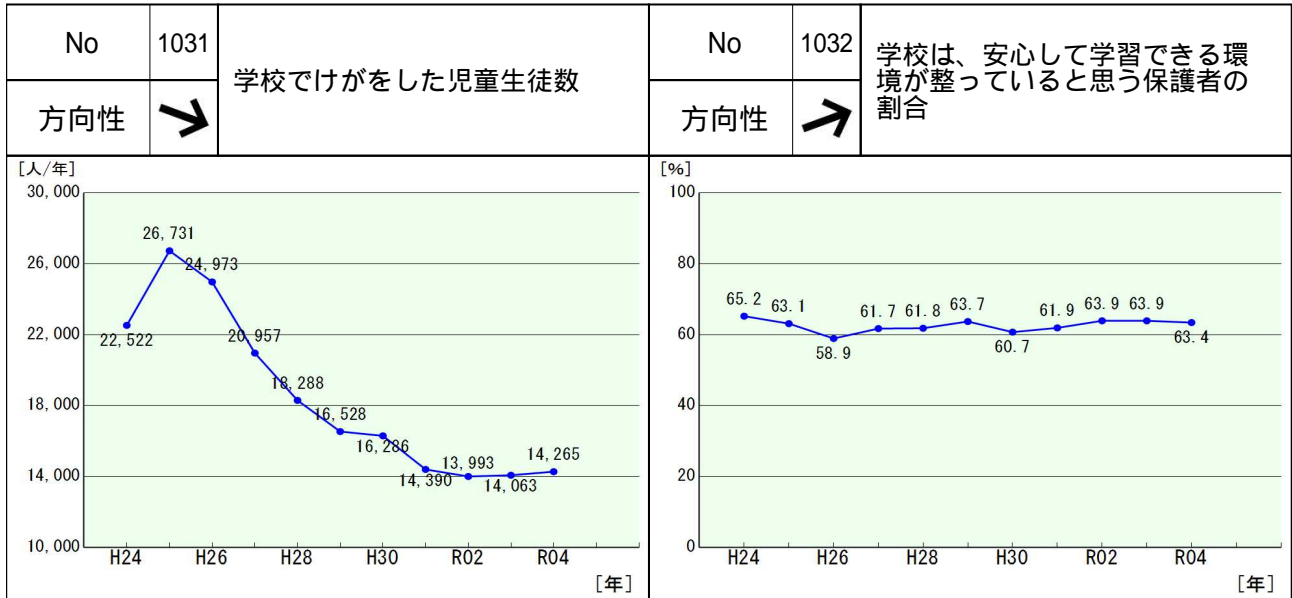
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 成果指標は基準値から横ばいである。その理由としては、スクールソーシャルワーカー、心の相談員やスクールカウンセラーの配置、不登校における自立支援としての適応指導教室など、多方面からいじめ・不登校対策に取り組んでおり、また、コロナ禍には実施できなかった「青空教室」を開催するなど、交流活動を通じた成果もあったものとする。
 課題のある児童生徒は増加しており、家庭環境や養育の状況が複雑化するなど、必要な支援が多様化しているため、改善に時間がかかることから、今後も引き続き関係機関と連携し不登校の未然防止・初期対応・自立支援に努める。

施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる
 単位施策 03 快適で安全な学校生活を充実させる

単位施策主管課【学校教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

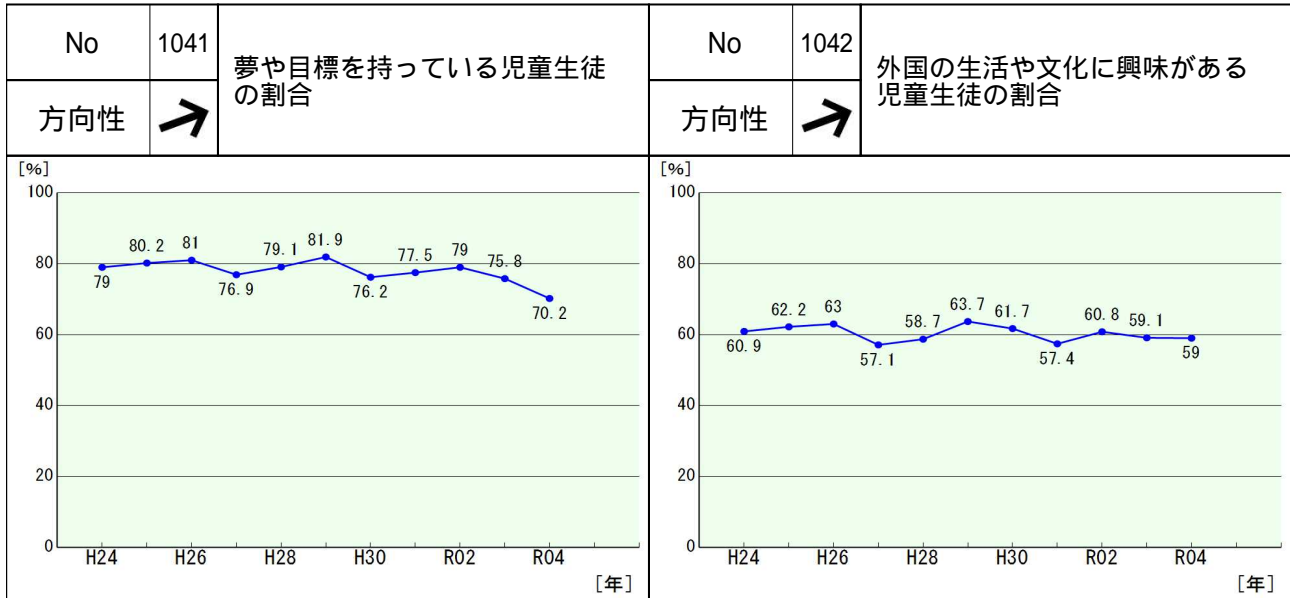
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 「学校でけがをした児童生徒数」は基準値から8,257人減り、順調に改善している。その理由は、サポーター等の配置による支援や計画的な施設等修繕の効果と考える。また、「学校は、安心して学習できる環境が整っていると思う保護者の割合」は基準値から1.8ポイント低下しているものの横ばいであり、サポーター等の支援により安心した学校生活を送れているものと考えられる。
 今後は、施設を安全に維持していくための長寿命化計画の実施や、施設等の老朽化に対する安全対策、外壁改修・非構造部材の耐震化改修などを計画的に実施していく。

施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる
 単位施策 04 出会いと体験の場を提供する

単位施策主管課【学校教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

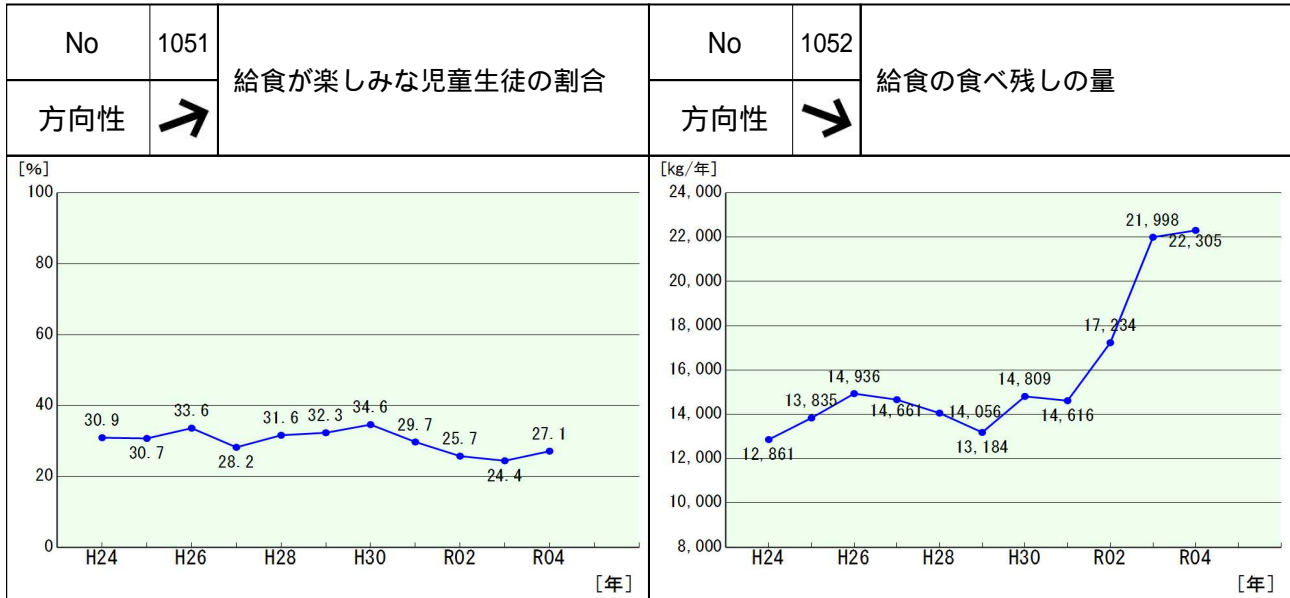
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調でないと評価する。
 「夢や目標を持っている児童生徒の割合」は、基準値から8.8ポイント低下しており、また、「外国の生活や文化に興味がある児童生徒の割合」は、基準値から1.9ポイント低下している。その理由としては、新型コロナウイルス感染症により、部活動や学校行事等の活動を縮小・自粛したことで、挑戦する意欲や能力を開発する機会が減少したことや、海外姉妹都市との交流が未実施であったことにより、夢や目標を描くことが難しかったものとする。
 体験事業などにより、未来を担う子どもたちが新たな出会いや実体験を通じて将来の夢や目標につなげることができるよう、今後も「生きる力」を養う教育を推進する必要がある。

施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる
 単位施策 05 食の大切さと楽しさを理解させる

単位施策主管課【学校教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調でないと評価する。
 「給食が楽しみな児童生徒の割合」は基準値から3.8ポイントの低下、「給食の食べ残しの量」は、基準値から9,444kg増加している。その理由は、新型コロナウイルス感染症の影響による急な欠食や学級閉鎖が増えたこと及び食事時間の減少などにより残食の量が増加し、会話をしない黙食により、給食を楽しみと感じる児童生徒が減少していると考えられる。
 今後は、献立の工夫等、児童生徒にとって魅力のある献立を充実させ、残さず食べることで健康な体になるなどの食育指導を行い、児童生徒の給食への興味、食べる意欲を高めることで、食べ残しの量を減らす取り組みを実施していく必要がある。

章 02 人づくり・心そだて
 節 01 学校教育
 施策 11 学校、家庭、地域が連携して子どもの健全な成長を支える

理念 ふれあい

施策主管課【学校教育課】

めざすまちの姿

子どもの健全な成長に対して、学校、家庭、地域などが連携している

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

学校、家庭、地域が連携して、地域全体で子どもの教育を担っていきます。
 地域との関わりをとおして、遊びやさまざまな人とのふれあいから、思いやりや責任感を身につけ、社会の担い手となれる教育を進めます。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	地域に開かれた学校をつくる	5,938	5,401
02	笑顔と愛にあふれる子どもを地域の連携で育てる	23,765	21,453
施策合計		29,703	26,854

まちづくり指標の分析

No	0016	地域の人で学校教育に関わった人の数	No	0017	子どもの教育について学校、家庭、地域の連携が十分にできていると思う人の割合
方向性	➔		方向性	➔	
対基準値：767人減 / 基準値からの推移：× 10年後めざそう値達成率：-62.6% 要因：新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、地域住民の活動を縮小・中止したことによる減少と考えるが、徐々に回復してきている。			対基準値：2.7ポイント増 / 基準値からの推移： 10年後めざそう値達成率：45.0% 年齢別：差異有、職業別：差異有、学区別：差異有 要因：学校と地域をつなげる事業の実施により、学校活動への理解が進んでいる。		

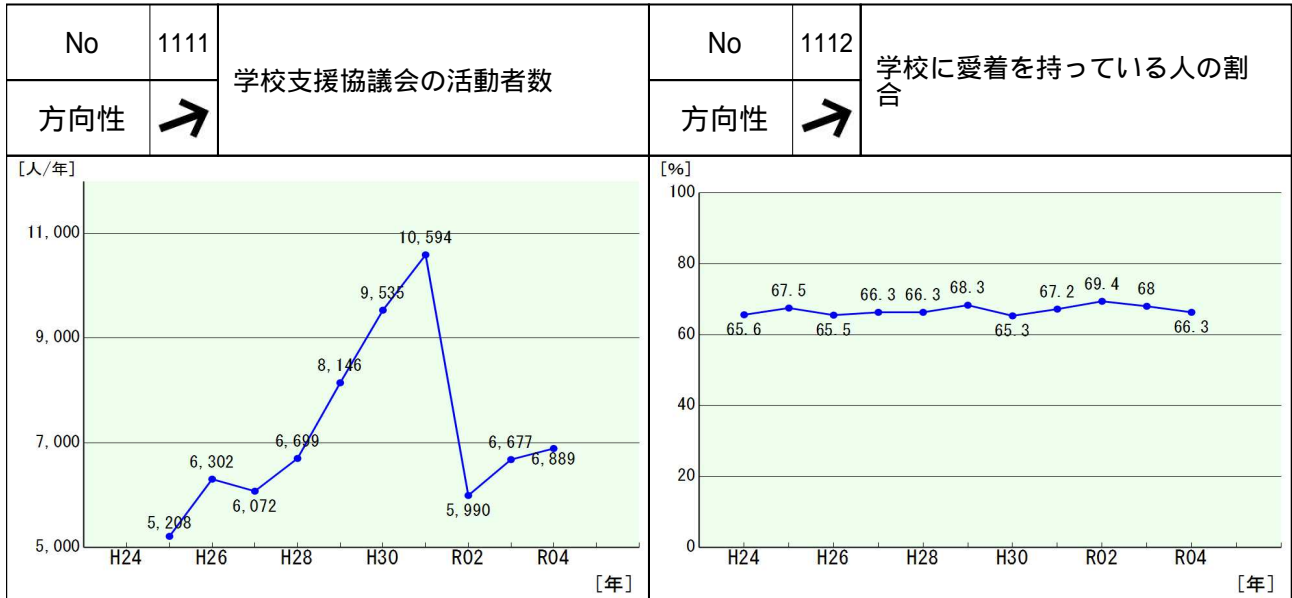
めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 「学校教育に関わった人の数」は基準値から767人減少しているが、前年度から317人増加している。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため関連事業が縮小等をしてきたが、徐々に実施できるようになり回復してきたものとする。「連携が十分にできていると思う人の割合」は基準値から2.7ポイント増加している。学校支援協議会の活動や、子ども教室等の実施により学校と家庭や地域との連携への理解が進んだものとする。
 今後も、学校と家庭や地域をつなげる事業の実施や、コミュニティ・スクールの検討を進め、地域で子どもの成長を支える意識の向上に向けて取り組んでいく。

施策 11 学校、家庭、地域が連携して子どもの健全な成長を支える
 単位施策 01 地域に開かれた学校をつくる

単位施策主管課【学校教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

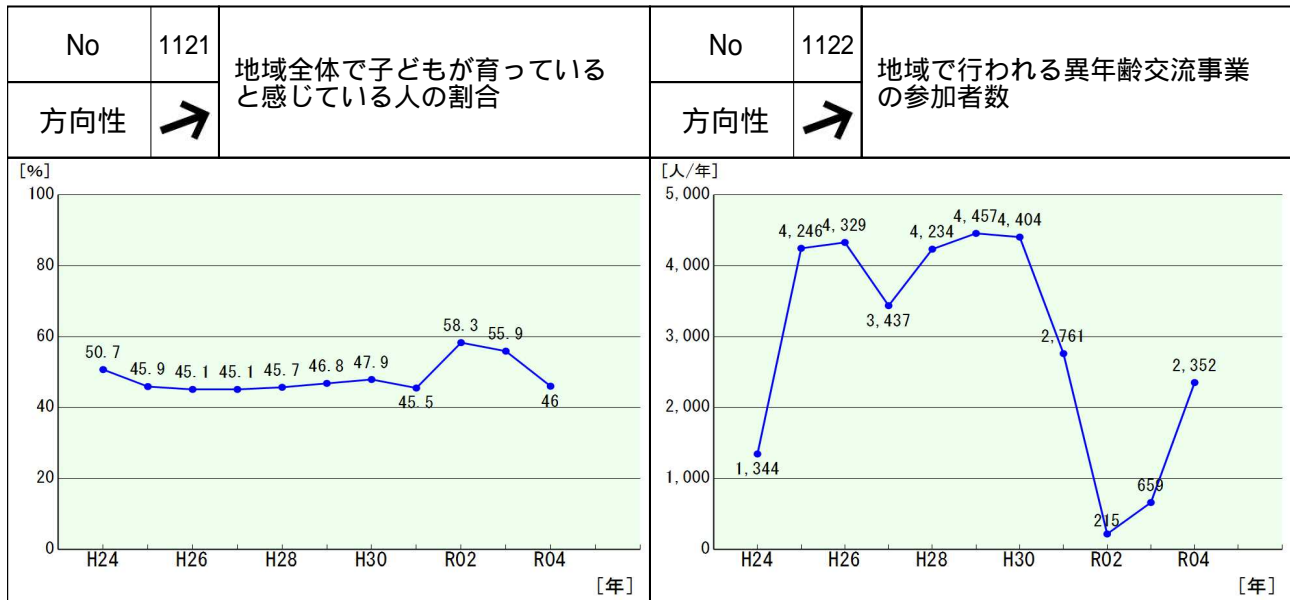
単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 「学校支援協議会の活動者数」は、基準値から1,681人増加している。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度で大きく下がったものの、順調に回復しているものとする。「学校に愛着をもっている人の割合」は基準値より0.7ポイント増加しており、全校で実施している学校評価事業や小学校に設置した学校支援協議会による花壇整備や読み聞かせ等のボランティア活動などを通じて、地域や保護者と連携した学校運営を進めてきた成果とする。
 引き続き、地域と学校が連携して地域全体で学校教育を支援するとともに、学校の活動を発信していくことで、市民が学校に愛着を持つことができるよう取り組んでいく。

施策 11 学校、家庭、地域が連携して子どもの健全な成長を支える

単位施策 02 笑顔と愛にあふれる子どもを地域の連携で育てる

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 「地域全体で子どもが育っていると感じている人の割合」は、基準値から4.7ポイント低下している。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により、PTA活動始め地域行事が一部中止・規模縮小等したためと推測される。また、「地域で行われる異年齢交流事業の参加者数」は、基準値から1,008人増加している。これは、ふれあい交流推進事業において、あいさつ運動や環境整備活動など、参加者が気軽に参加できる活動が実施できたためと考える。
 今後も、異年齢交流を推進する事業の取り組みを継続するとともに、こども教室等の周知や、地域全体で子どもの健全な成長を支える事業を実施していく必要がある。

章 02 人づくり・心そだて
 節 02 社会教育
 施策 12 青少年が健全で心豊かに成長できる環境をつくる

理念 いきいき

施策主管課【社会教育課】

めざすまちの姿

青少年が地域や社会のなかで健全に成長している

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

さまざまな人との交流をとおして、社会性を身につけ、個性や能力を發揮して、主体的に判断・行動できる青少年の育成に努めます。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	青少年が活躍する場をつくる	5,120	4,877
02	青少年の非行を防止する	5,747	5,377
施策合計		10,867	10,254

まちづくり指標の分析

No	0018	No	0019																												
方向性	➔	方向性	➔																												
	家庭で安らいでいると感じている青少年の割合		青少年の健全育成のための活動に関わった人の割合																												
<table border="1"> <caption>家庭で安らいでいると感じている青少年の割合</caption> <thead> <tr><th>年</th><th>割合 [%]</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>84.5</td></tr> <tr><td>H26</td><td>85.8</td></tr> <tr><td>H28</td><td>86.1</td></tr> <tr><td>H30</td><td>87.2</td></tr> <tr><td>R02</td><td>88.1</td></tr> <tr><td>R04</td><td>90.0</td></tr> </tbody> </table>		年	割合 [%]	H24	84.5	H26	85.8	H28	86.1	H30	87.2	R02	88.1	R04	90.0	<table border="1"> <caption>青少年の健全育成のための活動に関わった人の割合</caption> <thead> <tr><th>年</th><th>割合 [%]</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>4.4</td></tr> <tr><td>H26</td><td>5.1</td></tr> <tr><td>H28</td><td>5.9</td></tr> <tr><td>H30</td><td>6.6</td></tr> <tr><td>R02</td><td>7.3</td></tr> <tr><td>R04</td><td>7.8</td></tr> </tbody> </table>		年	割合 [%]	H24	4.4	H26	5.1	H28	5.9	H30	6.6	R02	7.3	R04	7.8
年	割合 [%]																														
H24	84.5																														
H26	85.8																														
H28	86.1																														
H30	87.2																														
R02	88.1																														
R04	90.0																														
年	割合 [%]																														
H24	4.4																														
H26	5.1																														
H28	5.9																														
H30	6.6																														
R02	7.3																														
R04	7.8																														
対基準値：4.4ポイント増 / 基準値からの推移： 10年後めざそう値達成率：80.0% 年齢別：差異有、職業別：差異有、地区別：差異有 要因：市内小中学校での出前教室の効果と想定。		対基準値：1.0ポイント増 / 基準値からの推移： 10年後めざそう値達成率：29.4% 年齢別：差異有、職業別：差異有、地区別：差異有 要因：街頭パトロール活動の推進により微増していると想定。地域との関わりが強い自営業が高い。																													

めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調と評価する。

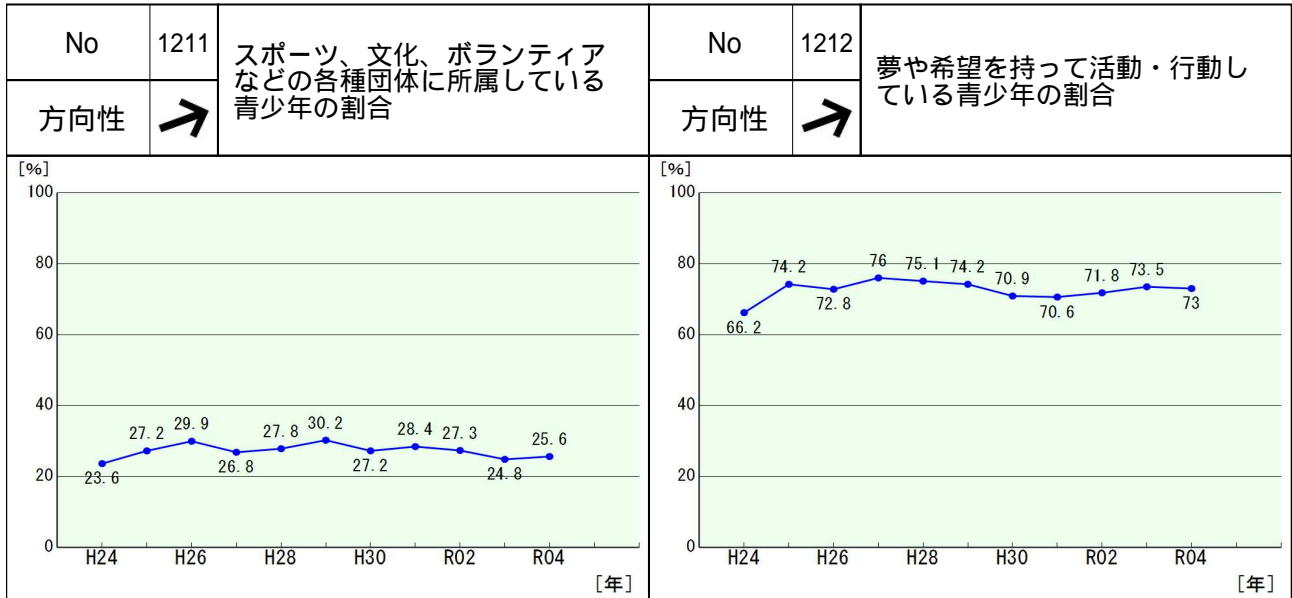
「家庭で安らいでいると感じている青少年の割合」は対基準値で4.4ポイント向上している。これは、家庭内等でのネットトラブル防止に関する市内小学校への出前講座等が児童のトラブル回避につながったことや、コロナ禍で自宅で過ごす青少年が多かったこと等によるものと考えられる。「青少年の健全育成のための活動に関わった人の割合」は対基準値で1.0ポイント向上しており、地域住民と連携し、街頭パトロール活動を推進できたことによるものと考えられる。

今後も、関係機関や地域との連携を深め、地域で青少年の健全育成及び非行防止の啓発を行っていく。

施策 12 青少年が健全で心豊かに成長できる環境をつくる
 単位施策 01 青少年が活躍する場をつくる

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

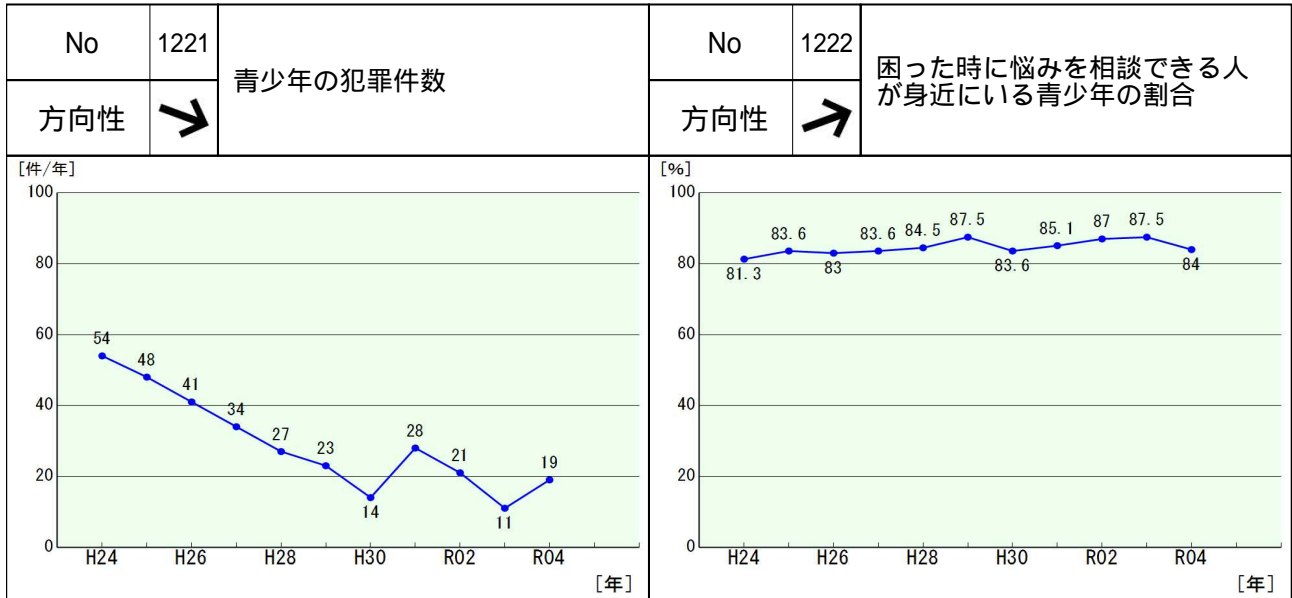
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 「スポーツなどの各種団体に所属している青少年の割合」は、基準値から2.0ポイント向上している。その理由としては、スポーツ等各種団体の活動が魅力的で、学生を中心に所属が多いことが要因と考える。「夢や希望を持って活動・行動している青少年の割合」は、基準値から6.8ポイント向上している。これは、20歳の集い実行委員会など様々な活動を通じて青少年が活躍できる環境を形成してきたためと考える。
 今後も引き続き、青少年が活躍できる環境を維持し、青少年の健全育成に取り組んでいく。

施策 12 青少年が健全で心豊かに成長できる環境をつくる
 単位施策 02 青少年の非行を防止する

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 「青少年の犯罪件数」は、基準値から35件改善している。その理由としては、青少年育成センターにおける非行防止啓発、パトロールの成果と考える。「困った時に悩みを相談できる人が身近にいる青少年の割合」は、基準値から2.7ポイント向上している。その理由としては、青少年居場所づくり推進事業等により青少年と大人が交流できる環境を整えてきた成果と考える。

。今後も引き続き、青少年が大人とふれあえる機会を維持し、青少年の非行防止に取り組んでいく。

章 02 人づくり・心そだて
 節 02 社会教育
 施策 13 マナーが守られ思いやりにあふれる地域をつくる

理念 ふれあい

施策主管課【社会教育課】

めざすまちの姿

正しいマナーを子どもが身につけており、その習慣が次世代にも継承されている

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

さまざまな体験や人とのふれあい、ボランティア活動などをおして、社会性を身につけ、人を思いやる心を育てます。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	子どもが社会性を身につけ思いやる心を育てる	0	0
02	思いやりに感謝し親切にできる地域をつくる	798	798
施策合計		798	798

まちづくり指標の分析

No	0020	この1年で人に親切にしたことのある人の割合	No																
方向性	➔		方向性																
<table border="1"> <caption>まちづくり指標の分析データ</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>割合 [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>78.3</td></tr> <tr><td>H26</td><td>71.6</td></tr> <tr><td>H28</td><td>74</td></tr> <tr><td>H30</td><td>75</td></tr> <tr><td>R02</td><td>76.6</td></tr> <tr><td>R04</td><td>85</td></tr> </tbody> </table>			年	割合 [%]	H24	78.3	H26	71.6	H28	74	H30	75	R02	76.6	R04	85			
年	割合 [%]																		
H24	78.3																		
H26	71.6																		
H28	74																		
H30	75																		
R02	76.6																		
R04	85																		
対基準値：3.0ポイント減 / 基準値からの推移：x 10年後めざそう値達成率：-44.8% 年齢別：差異有、職業別：差異有、地区別：差異有 要因：地域における人間関係の希薄化が要因と想定。 学生等社会との関わりが多い世代、職業が高い。																			

めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

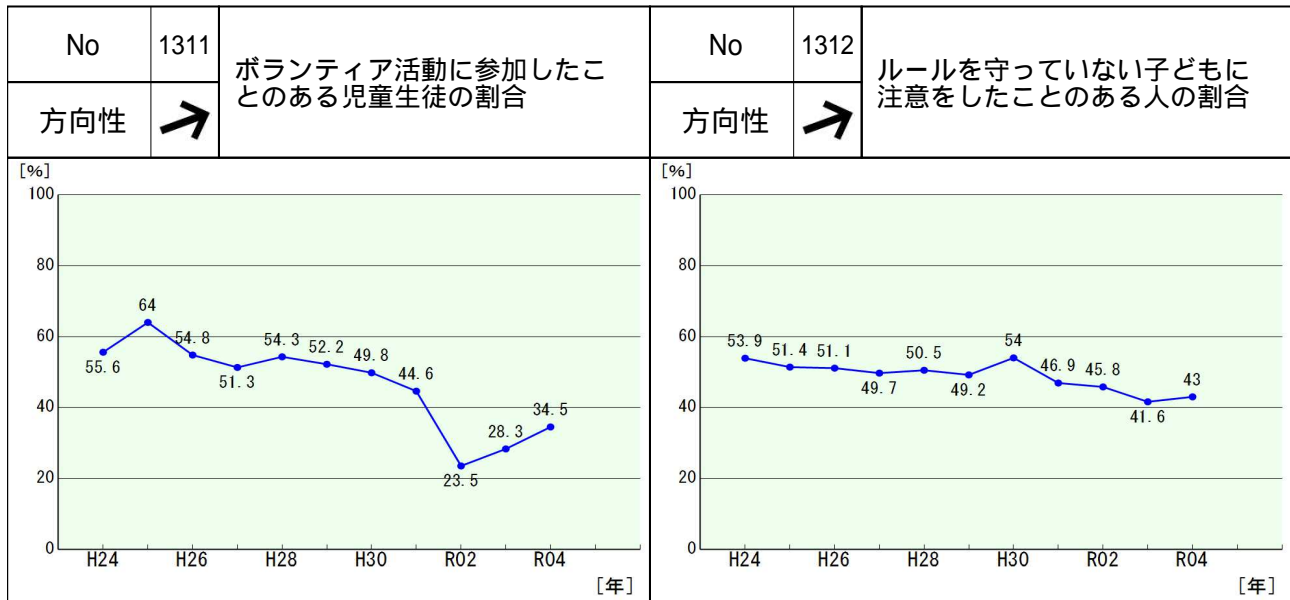
施策の成果動向は、順調でないと評価する。
 まちづくり指標は、対基準値で3.0ポイント低下している。年齢別にみると、10代が最も高く、年齢が上がるにつれて低下する傾向から、学校や家庭等で人に親切にすることを教えられたことが、年齢を重ねることで希薄化していることが要因と考える。
 今後は、家庭内等で親子の会話やふれあいを増進できる方法を伝え、保護者が子どもへの関わり方等を身につけるとともに、保護者自身もマナーや思いやりの大切さを再確認できる機会の提供に努めていく必要がある。

施策 13 マナーが守られ思いやりにあふれる地域をつくる

単位施策 01 子どもが社会性を身につけ思いやる心を育てる

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調でないと評価する。
 「ボランティア活動参加児童生徒の割合」は基準値から21.1ポイント低下している。これは、回復基調にあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったボランティア活動が多かったことが要因と考える。「ルールを守っていない子どもに注意をしたことのある人の割合」は、基準値から10.9ポイント低下している。これは、近年会社員等地域から離れる時間が長い人が増えており、地域の子どもの関わる時間が短いことが要因と考える。
 今後も、家庭、地域及び学校の連携を図り、ボランティア等地域活動の促進に努める必要がある。

施策 13 マナーが守られ思いやりにあふれる地域をつくる
 単位施策 02 思いやりに感謝し親切にできる地域をつくる

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移

No	1321	この1か月で地域の人とあいさつや会話をしたことのある人の割合	No																										
方向性	➔		方向性																										
<table border="1"> <caption>この1か月で地域の人とあいさつや会話をしたことのある人の割合 [%]</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>割合 [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>90.6</td></tr> <tr><td>H25</td><td>90.3</td></tr> <tr><td>H26</td><td>89.6</td></tr> <tr><td>H27</td><td>91.4</td></tr> <tr><td>H28</td><td>90.5</td></tr> <tr><td>H29</td><td>91.1</td></tr> <tr><td>H30</td><td>89.9</td></tr> <tr><td>H31</td><td>90.4</td></tr> <tr><td>R01</td><td>88.1</td></tr> <tr><td>R02</td><td>88.7</td></tr> <tr><td>R03</td><td>87.7</td></tr> </tbody> </table>			年	割合 [%]	H24	90.6	H25	90.3	H26	89.6	H27	91.4	H28	90.5	H29	91.1	H30	89.9	H31	90.4	R01	88.1	R02	88.7	R03	87.7			
年	割合 [%]																												
H24	90.6																												
H25	90.3																												
H26	89.6																												
H27	91.4																												
H28	90.5																												
H29	91.1																												
H30	89.9																												
H31	90.4																												
R01	88.1																												
R02	88.7																												
R03	87.7																												

No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調でないと評価する。
 「この1か月で地域の人とあいさつや会話をしたことのある人の割合」は基準値から2.9ポイント低下している。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で地域活動等が減少したことにより、地域との関わりが減ったことが要因と考える。また、年齢別では20歳代、職業別では会社員・公務員、学生を中心に、仕事などで地域と関わる時間が減少していることも要因と考える。
 今後は、地域と連携を図り、地域活動を若い世代や会社員等も参加しやすい開催方法に見直すなど、地域との関わりを持つ機会を増やせるよう努めていく必要がある。

章 02 人づくり・心そだて
 節 02 社会教育
 施策 14 楽しみや生きがいを感じるまちをつくる

理念 いきいき

施策主管課【社会教育課】

めざすまちの姿

楽しみや生きがいを感じて学習や余暇活動に取り組んでいる

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

市民の自主的・主体的な学習活動によって、生きがいを持つことができるよう、さまざまな学習の機会や情報を提供します。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	学び教え合う学習活動を充実させる	264,314	262,807
02	読書に親しみ楽しむ機会を増やす	338,476	335,365
施策合計		602,790	598,172

まちづくり指標の分析

No	0021	生涯学習を行っている人の割合	No		
方向性	➔		方向性		
<p>対基準値：4.0ポイント減 / 基準値からの推移： 10年後めざそう値達成率：-55.6% 年齢別：差異有、職業別：差異有、地区別：差異有 要因：市民の学習時間の制約が要因と考える。学生など比較的時間に余裕のある世代や職業は高い。</p>					

めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調でないと評価する。

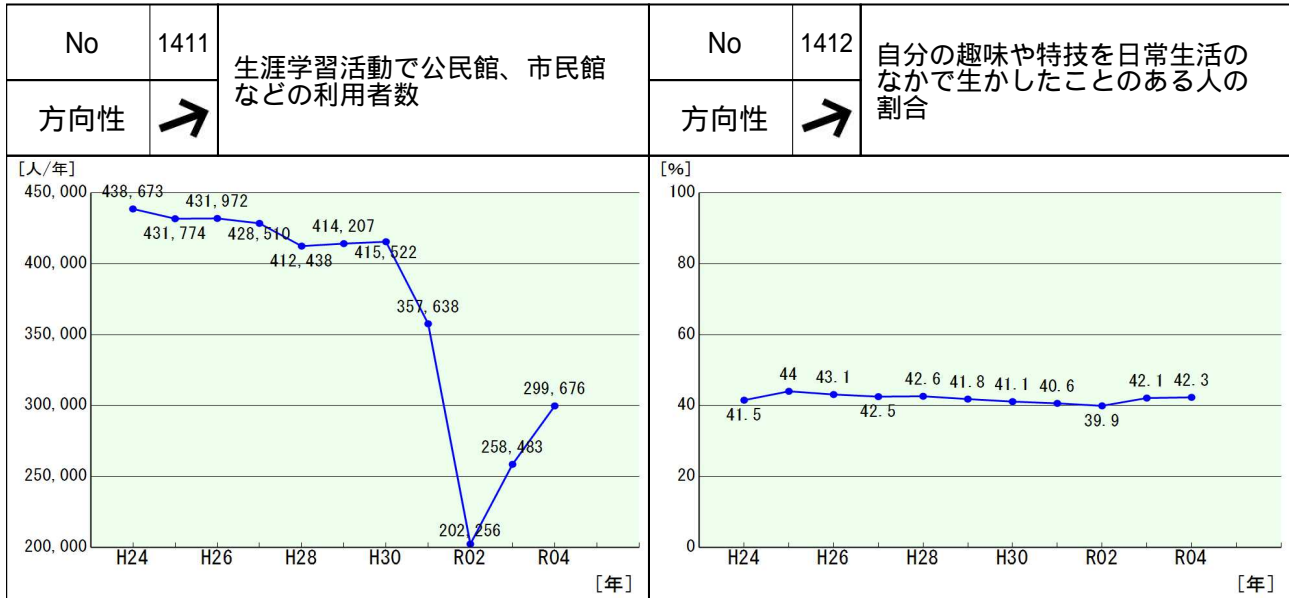
まちづくり指標は、対基準値で4.0ポイント低下し、年齢別では20～50歳代の数値が低下している。これは、就業世代の限られた余暇時間の中で、生涯学習活動に興味・関心が向きにくいことや、そうした世代に対して魅力的な講座の提供ができていないこと、また、自主サークルの参加者の高齢化等に伴う活動規模の縮小などが要因と考える。

今後は、地域や職域におけるニーズを踏まえた講座の企画や内容等の検討を進め、就業世代の生涯学習意欲を醸成するための取り組みが必要である。

施策 14 楽しみや生きがいを感じるまちをつくる
 単位施策 01 学び教え合う学習活動を充実させる

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

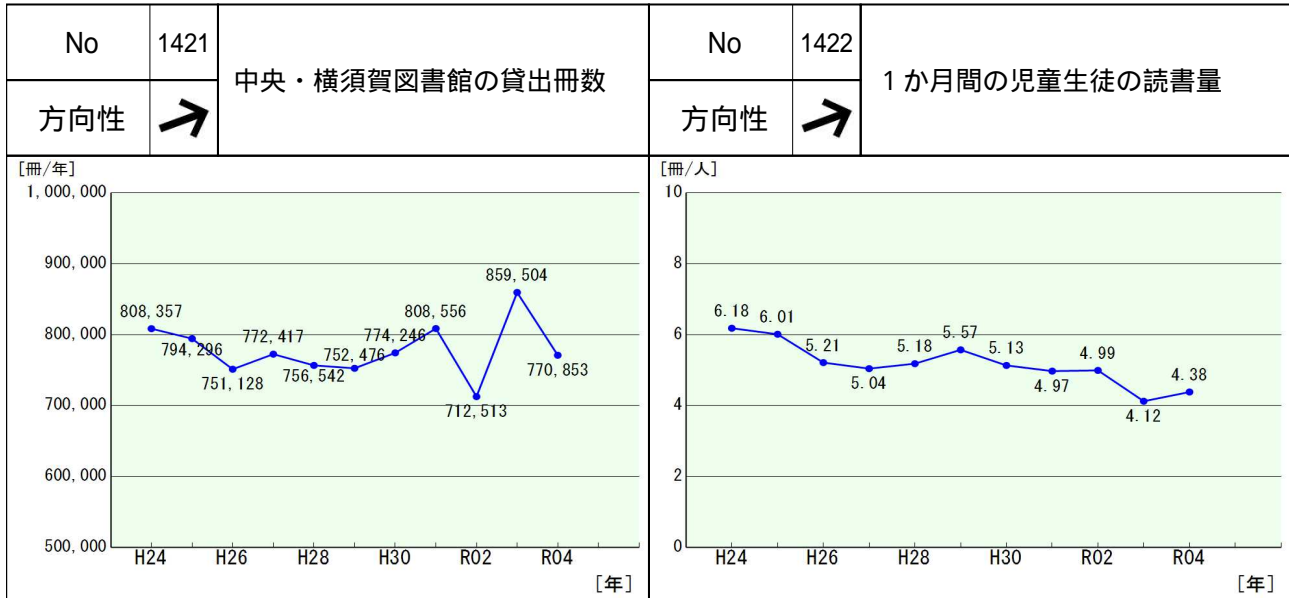
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 「生涯学習活動で公民館、市民館などの利用者数」は、基準値から138,997人低下しているものの、前年度から41,193人向上しており、感染症対策を十分に講じた中で少しずつ活動が再開されてきていることが要因と考える。「自分の趣味や特技を日常生活のなかで生かしたことがある人の割合」は基準値から0.8ポイント向上している。この理由は、感染症対策を十分講じながら、発表等の機会を提供できたことが要因と考える。
 今後は、地域住民の学習ニーズの把握に努め、ニーズに合った学習機会の提供と、自主的な学習活動がしやすい環境整備等に一層取り組んでいく必要がある。

施策 14 楽しみや生きがいを感じるまちをつくる
 単位施策 02 読書に親しみ楽しむ機会を増やす

単位施策主管課【中央図書館】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 「中央・横須賀図書館の貸出冊数」は、基準値から37,504冊減少した。主な理由は、中央図書館が空調改修工事のため4か月間休館したことによるもので、中央図書館の前年度同期間の貸出冊数198,715冊に対し、対前年度で88,651冊減にとどまった。「1か月間の児童生徒の読書量」は、基準値から1.8ポイント低下したが、前年度からは0.26ポイント増加した。学年別では小学生の読書量が前年度から0.58ポイント増加しており、これは、学級文庫(わくわく文庫)の巡回回数を増加したためと考える。
 今後も、両図書館の蔵書整備に加え、学校等と連携した事業の充実を図る必要がある。

章 02 人づくり・心そだて
 節 03 スポーツ

理念 いきいき

施策 15 だれもが気軽にスポーツを楽しむ元気なまちをつくる

施策主管課【スポーツ課】

めざすまちの姿

気軽にスポーツを楽しんでいる

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

市民にスポーツの楽しさや大切さを広め、だれもがスポーツに親しめる環境を整備します。
 また、市民がいきいきとした生活を送ることができるよう、各種スポーツ活動をとおして、健康づくりを進めます。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	スポーツに親しむ機会を提供する	498,753	491,114
02	スポーツで活躍する人を支援する	5,240	4,972
施策合計		503,993	496,086

まちづくり指標の分析

No	0022	市民一人当たりのスポーツ施設の利用回数	No	0023	スポーツを実践している人の割合
方向性	➔		方向性	➔	
<p>[回/人・年]</p> <p>[年]</p>			<p>[%]</p> <p>[年]</p>		
<p>対基準値:0.3回増/基準値からの推移: 10年後めざそう値達成率:18.8% 要因:新型コロナウイルス感染症による制限緩和が進み、利用者が少しずつ回復してきたもの。</p>			<p>対基準値:0.5ポイント減/基準値からの推移:× 10年後めざそう値達成率:-7.2% 年齢別:差異有、職業別:差異有、地区別:差異無 要因:未だ新型コロナウイルス感染症による行動制限の影響が残っている。</p>		

めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調でない」と評価する。

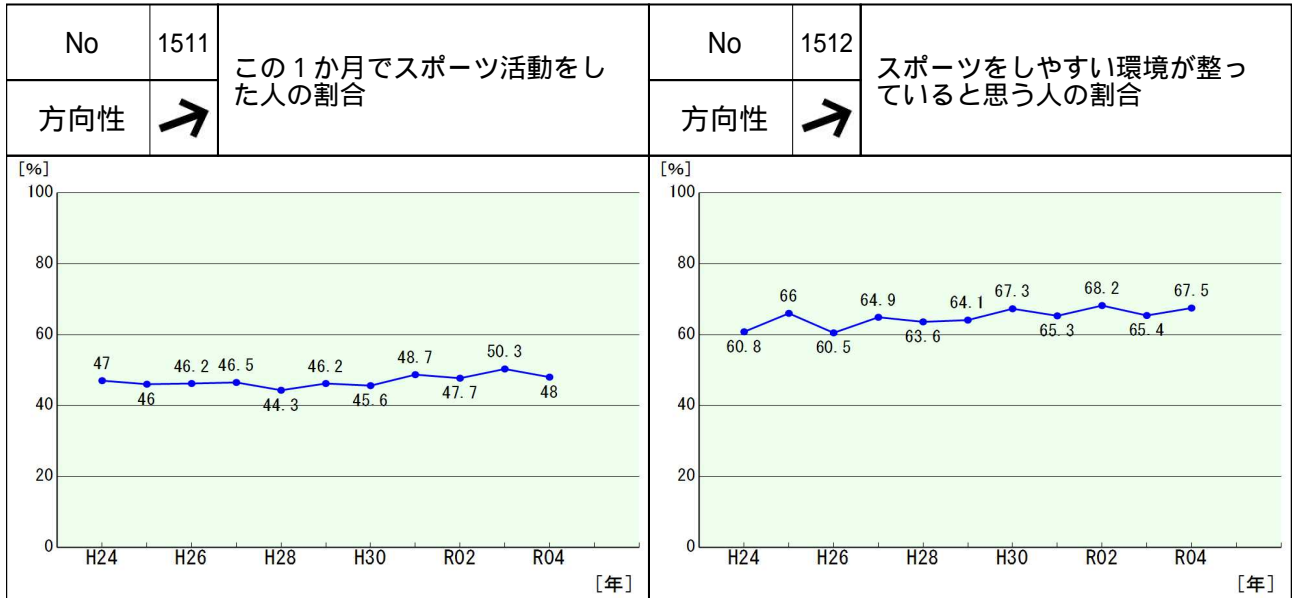
「スポーツ施設の利用回数」は基準値から0.3回増加しているものの、「スポーツを実践している人の割合」は基準値から0.5ポイント減少しており、年齢別では20～30代、職業別では会社員・公務員の数値が低くなっている。これは、各種事業を実施しているものの、仕事や家事で忙しく、スポーツに取り組む意識の醸成には繋がっていないことが要因と考える。

今後も、だれもが気軽にスポーツを楽しむ元気なまちとなるよう、スポーツを「する」「みる」「ささえる」視点での取り組みを進め、スポーツに関わる人を増やしていく必要がある。

施策 15 だれもが気軽にスポーツを楽しむ元気なまちをつくる
 単位施策 01 スポーツに親しむ機会を提供する

単位施策主管課【スポーツ課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

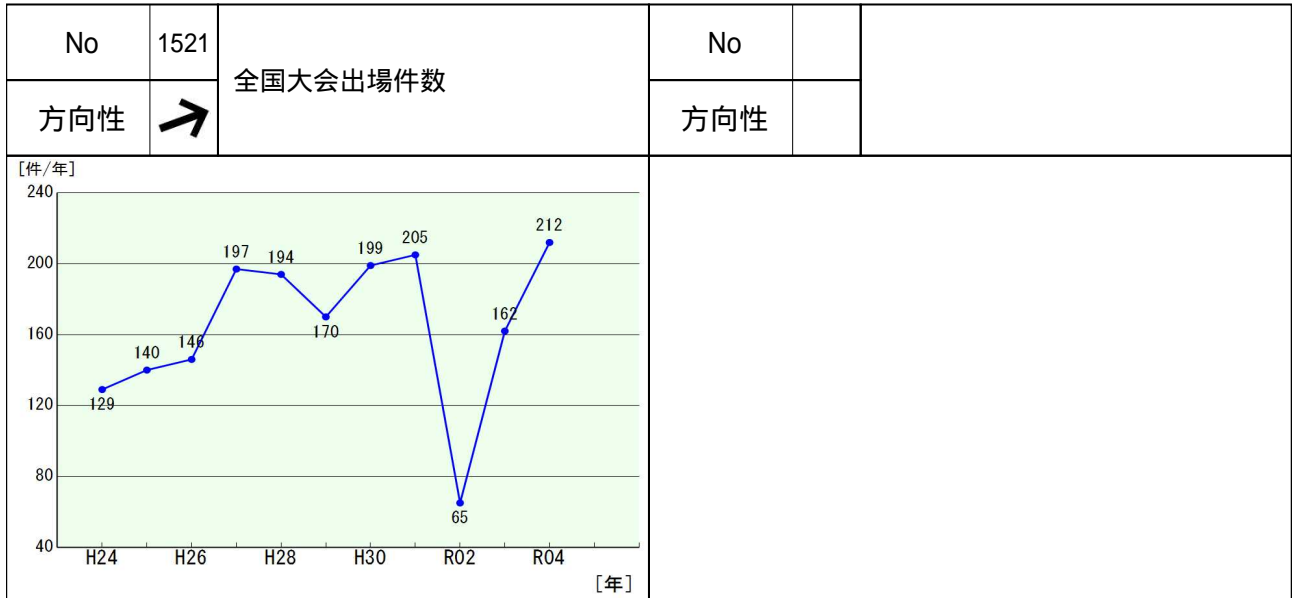
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 「この1か月でスポーツ活動をした人の割合」は、基準値から1.0ポイント向上、また「スポーツをしやすい環境が整っていると思う人の割合」は、基準値から6.7ポイント向上している。
 新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、東海ハーフマラソンを3年ぶりに開催できたことや市民体育館の外壁改修工事や柔道場の畳更新事業などを着実に実施し、スポーツに対する機運を高めることができたものとする。
 今後も東海ハーフマラソンをはじめ各種事業において、魅力ある事業内容を展開するとともに、スポーツ施設の改修を進め、スポーツに取り組みやすい環境整備に努めていく。

施策 15 だれもが気軽にスポーツを楽しむ元気なまちをつくる
 単位施策 02 スポーツで活躍する人を支援する

単位施策主管課【スポーツ課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 成果指標は、基準値から83件、前年度から50件増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響による制限緩和が進み、徐々にスポーツ大会が開催されるようになってきたものとする。また、ふるさと大使の企業スポーツチームと連携し、スポーツ出前授業や市民とふるさと大使が交流できるイベントを開催し、認知度を上げ、応援するとともに、市民のスポーツの機運を高めることができたとする。
 今後もトップアスリートの試合観戦やスポーツ教室を実施するなど、世界や全国で活躍する選手を輩出できるよう支援していく。

章 02 人づくり・心そだて
 節 04 文化
 施策 16 文化に親しみ心豊かなまちをつくる

理念 いきいき

施策主管課【文化芸術課】

めざすまちの姿

文化に親しみ心豊かな生活を送っている

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

市民が積極的に参加できる文化事業を開催し、個性豊かな文化を振興します。
 また、芸術劇場を拠点として公民館・市民館などさまざまな場で、文化による交流を促し、まちのにぎわいづくりに貢献します。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	市民の文化芸術活動を支援する	9,118	9,110
02	感動が生まれる文化芸術を提供する	442,172	433,156
施策合計		451,290	442,266

まちづくり指標の分析

No	0024	文化・芸術活動を行っている人の割合	No																	
方向性	➔		方向性																	
<table border="1"> <caption>文化・芸術活動を行っている人の割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>割合 [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>19.6</td></tr> <tr><td>H26</td><td>19.3</td></tr> <tr><td>H28</td><td>19.4</td></tr> <tr><td>H30</td><td>22.3</td></tr> <tr><td>R02</td><td>20.3</td></tr> <tr><td>R04</td><td>19.4</td></tr> <tr><td>目標</td><td>25</td></tr> </tbody> </table>					年	割合 [%]	H24	19.6	H26	19.3	H28	19.4	H30	22.3	R02	20.3	R04	19.4	目標	25
年	割合 [%]																			
H24	19.6																			
H26	19.3																			
H28	19.4																			
H30	22.3																			
R02	20.3																			
R04	19.4																			
目標	25																			
対基準値:2.1ポイント減 / 基準値からの推移: x 10年後のめざそう値達成率:-38.9% 年齢別:差異有、職業別:差異有、地区別:差異有 要因:自営業や学生など比較的時間に余裕があり文化芸術活動に触れる機会が多い人が高い。																				

めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 まちづくり指標は、基準値から2.1ポイント減、前年度から1.9ポイント減となったが、芸術劇場の開館等により、継続的に市民の文化芸術への関心が高まり事業参加者数も増えており、ほぼ横ばいの数値で推移している。また、成果指標は、催し物の開催数は基準値をやや下回ったが、「事業への参加者数」は増加し基準値を上回っている。特に、日常的に文化芸術に触れる機会が多いと考えられる世代や業種の方を中心に、比較的高水準で推移している。
 今後も、市内各所で文化・芸術に触れあえる機会を提供し、気軽に体験できるワークショップ等の機会を増やすことで、文化・芸術に参加できる環境を整備していく。

施策 16 文化に親しみ心豊かなまちをつくる
 単位施策 01 市民の文化芸術活動を支援する

単位施策主管課【文化芸術課】

成果指標の推移

No	1611	個展・展覧会の催し物の開催数	No																									
方向性	➔		方向性																									
<table border="1"> <caption>個展・展覧会の催し物の開催数推移</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>開催数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>79</td></tr> <tr><td>H25</td><td>93</td></tr> <tr><td>H26</td><td>107</td></tr> <tr><td>H27</td><td>131</td></tr> <tr><td>H28</td><td>132</td></tr> <tr><td>H29</td><td>117</td></tr> <tr><td>H30</td><td>106</td></tr> <tr><td>H31</td><td>97</td></tr> <tr><td>R02</td><td>54</td></tr> <tr><td>R03</td><td>79</td></tr> <tr><td>R04</td><td>71</td></tr> </tbody> </table>		年	開催数	H24	79	H25	93	H26	107	H27	131	H28	132	H29	117	H30	106	H31	97	R02	54	R03	79	R04	71			
年	開催数																											
H24	79																											
H25	93																											
H26	107																											
H27	131																											
H28	132																											
H29	117																											
H30	106																											
H31	97																											
R02	54																											
R03	79																											
R04	71																											

No		No	
方向性		方向性	

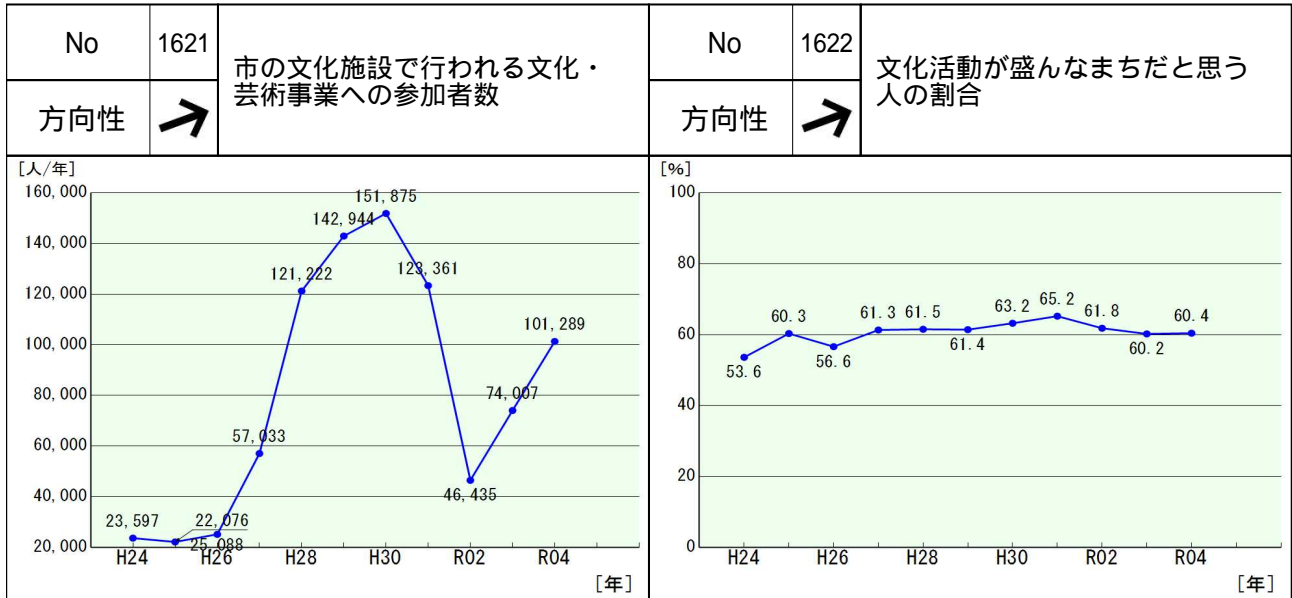
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 成果指標は、基準値と比べ減少している。その理由は、状況に応じた感染対策を講じながら展示会等を開催する施設等が増えたものの、新型コロナウイルス感染症による様々な制限が緩和され、学業等が活発化し、文化芸術活動に割く時間が減少したことによるものと考えられる。
 今後も、市内各所で多くの方が作品の制作体験や鑑賞ができるよう、活動支援を続けていく。

施策 16 文化に親しみ心豊かなまちをつくる
 単位施策 02 感動が生まれる文化芸術を提供する

単位施策主管課【文化芸術課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 「文化・芸術事業への参加者数」は、基準値から77,692人増加し、前年度からも27,282人増となった。その理由は、時期に応じた感染予防対策を講じつつ事業を実施したためと考える。
 「文化活動が盛んなまちだと思う人の割合」は、対基準値で6.8ポイント増加し、前年度と比べると40代及び50代で増加している。その理由は、文化活動への関心は継続して高いが、学業等が活発化し、若い世代において文化芸術活動に割く時間が減少したためと考える。
 今後は、市民が文化芸術に関心を持ち、触れ合える機会を提供できるよう、時期に応じた対策を講じながら、市内各所で文化芸術事業を開催し、施策を推進していく。

章 02 人づくり・心そだて
 節 05 文化財
 施策 17 郷土の歴史や文化を大切に継承する

理念 活力

施策主管課【社会教育課】

めざすまちの姿

地域の歴史や伝統文化が大切に守られ継承されている

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

伝統文化・文化財の継承をとおして、世代間の交流を図り、祭りや伝統文化・文化財を生かしてまちに愛着を持てる環境を整備します。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	伝統文化を大切に守る	53,091	10,304
02	郷土の歴史と文化に親しむ	35,009	34,847
施策合計		88,100	45,151

まちづくり指標の分析

No	0025	No	0026
方向性	➔ 郷土の歴史などに愛着を持っている人の割合	➔	15歳～30歳の若者のなかで、伝統文化を継承している団体に所属している人の割合
<p>[%] 100.0 80.0 60.0 40.0 20.0 0.0 [年]</p>		<p>[%] 3.00 2.00 1.00 0.00 [年]</p>	
対基準値:2.7ポイント減/基準値からの推移: 10年後めざそう値達成率:-55.1% 年齢別:差異有、職業別:差異有、地区別:差異有 要因:若年層の郷土の歴史への興味低下が要因と考える。比較的時間に余裕のある世代、職業が高い。		対基準値:0.3ポイント増/基準値からの推移: 10年後めざそう値達成率:47.2% 要因:地域の伝統文化団体が継承を意識した活動を実施してきた効果と考える。	

めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調でないと評価する。

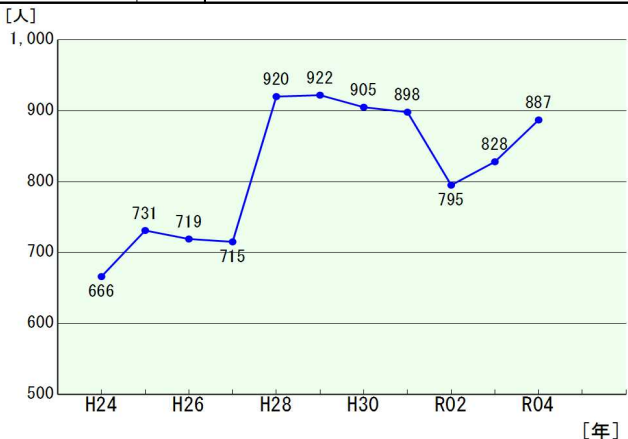
「郷土の歴史などに愛着を持っている人の割合」は、対基準値で2.7ポイント低下しており、「15歳～30歳の若者のなかで、伝統文化を継承している団体に所属している人の割合」は対基準値で0.25ポイント向上している。これは、地域のまつり等伝統文化を継承する団体の積極的な活動等により、団体に所属する若者は増加しているものの、伝統文化や郷土の歴史等についての啓発が十分ではないことから広く愛着につながっていないと考える。

今後は、伝統文化や郷土の歴史等の啓発方法について検討し、郷土の歴史や文化の継承につなげていく必要がある。

施策 17 郷土の歴史や文化を大切に継承する
 単位施策 01 伝統文化を大切に守る

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移

No	1711	伝統文化を継承している団体の 会員数	No	
方向性	➔		方向性	
				

No		No	
方向性		方向性	

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 成果指標は、基準値から221人向上している。その理由としては、各種団体が補助金等を活用し、伝統文化を継承するための活動へ積極的に取り組んでいることが要因と考える。
 今後も、文化財等の維持管理に対する補助事業を活用した適切な保存や文化財等に触れ合う機会の提供により、文化財・伝統文化を継承していく環境づくりに取り組んでいく。

施策 17 郷土の歴史や文化を大切に継承する
 単位施策 02 郷土の歴史と文化に親しむ

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移

No	1721	市の歴史や伝統文化について知っている人の割合	No																										
方向性	➔		方向性																										
<table border="1"> <caption>市の歴史や伝統文化について知っている人の割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>割合 [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>76.1</td></tr> <tr><td>H25</td><td>69.9</td></tr> <tr><td>H26</td><td>67.1</td></tr> <tr><td>H27</td><td>69.1</td></tr> <tr><td>H28</td><td>68.4</td></tr> <tr><td>H29</td><td>67.6</td></tr> <tr><td>H30</td><td>63.3</td></tr> <tr><td>H31</td><td>68.8</td></tr> <tr><td>R02</td><td>69.2</td></tr> <tr><td>R03</td><td>69.3</td></tr> <tr><td>R04</td><td>65.1</td></tr> </tbody> </table>			年	割合 [%]	H24	76.1	H25	69.9	H26	67.1	H27	69.1	H28	68.4	H29	67.6	H30	63.3	H31	68.8	R02	69.2	R03	69.3	R04	65.1			
年	割合 [%]																												
H24	76.1																												
H25	69.9																												
H26	67.1																												
H27	69.1																												
H28	68.4																												
H29	67.6																												
H30	63.3																												
H31	68.8																												
R02	69.2																												
R03	69.3																												
R04	65.1																												

No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調でないと評価する。
 成果指標は、対基準値から11.0ポイント低下しており、年齢別では若年世代の割合が低い。
 その理由としては、平洲記念館等において各種啓発事業を実施しているが、高齢世代の講座等の受講者が多く、若年層世代の受講者が得られていないことが要因と考える。
 今後は、歴史や伝統文化への関心が薄い若年層世代に対するPR方法等の工夫を検討していく必要がある。

令和4年度(2022年度)教育委員会主要事業点検・評価表

施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる

単位施策 10-1 個性と能力が伸びる授業をつくる

【学校教育課】

番号	1	事業名	授業力向上事業	事業費	2,343 千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	<p>子どもたちの学力向上には、教員の資質向上が不可欠である。各学校の実態に即した研修と研究を行うことにより、教員の授業力向上を図る。とりわけ、特別支援教育に関しては、近年の急激な特別支援学級、中でも広汎性発達障害等の子どもたちが在籍する自閉症・情緒障害学級の増加だけでなく、通常の学級にもASDやLD, ADHDといった特別な支援を要する児童生徒が一定数在籍するといわれるなど、自閉症・情緒障害及び発達障害の理解に関するニーズが高い。資格をもつ講師による「生きる力と心を育むプログラム『セカンドステップ』」を自閉症・情緒障害学級を主とした特別支援学級で実施することにより、発達障害等の子どもたちの理解と支援について教員が学び、学校生活での指導につなげていく。</p>				
実施内容	<p>教員の授業力向上を図るため、各校において研修・研究を実施し、特別支援教育等の充実のためのモデル校を中心とした授業研究を行った。</p>				
目標に対する評価	<p>実践的・体験的な研修や授業の参観により、日頃の教育活動の課題解決につながった。また、教員が学んだことを生かして授業改善に取り組んだことで、児童生徒が意欲的に学び、主体的に考えようとする意識が高まった。</p>				
課題・改善点	<p>教育活動に関する先進的な取組を行う講師や、教育現場の今日的課題に指導・助言をもらえる講師を招き、モデル校を指定して研修を行うなど、先を見据えた研修を実施していく。</p>				

【学校教育課】

番号	2	事業名	英語が話せる子ども育成事業	事業費	49,896 千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	<p>学校生活において、英語を使うことを楽しみ、積極的に英語でコミュニケーションをしようとしたり、異文化を理解し日本文化を尊重しようとしたりする児童生徒の育成を図るため、引き続き、英語指導支援員(ALT)を全校に配置し、小中学校が連携する英語・外国語活動の充実を図る。</p>				
実施内容	<p>ALT12人を小中学校に配置し、「英語のあいさつ」「ゲーム」「英語の歌」など音声中心の活動で、主に英語の音やリズムに慣れ親しむ活動や、コミュニケーションを楽しむ授業を行った。また、日本とは</p>				

番号	2	事業名	英語が話せる子ども育成事業	事業費	49,896千円
	異なる外国の文化等を紹介することで、子どもたちに興味をもたせることができた。授業の他、学校行事等でも子どもたちと過ごすことにより、自然に英語でコミュニケーションをとることができた。				
目標に対する評価	令和4年(2022年)12月に、小学6年生と中学1年生を対象に「ALTとの授業についてのアンケート」を実施し、小学6年生は87.3%、中学1年生は80.3%がALTとの授業が好きであると答えている。また、英語が使えるようになりたいと考えている児童生徒は、小学6年生は78.0%、中学1年生は75.7%であった。この結果から、小学校及び中学校の英語科における接続は良好といえる。コロナ渦の中、様々な活動が制約されたが、その中で、ALTが歌やゲーム等、児童生徒にとって親しみやすい活動を取り入れたり、ALTが話す母国語レベルの英語に触れたりすることによる効果が大きい。また、英語への関心意欲を持続させることもできている。				
課題・改善点	ALTとの授業が好きではないと回答する子の理由に、小中学校共通して「ALTが何を言っているのかわからない」「外国の人だと思って緊張する」という意見がある。今後も、歌やゲームを取り入れながら楽しい雰囲気英語に親しめるようにするとともに、授業の中で児童生徒が身近な生活場面を想定しながら日本語を使わないで英語でコミュニケーションできる場面を設定することで、英語に興味を持ち慣れさせる授業を工夫する必要がある。				

【学校教育課】

番号	3	事業名	小学校水泳授業民間施設活用事業	事業費	35,133千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	民間施設を活用して水泳授業を行うことで、教員のプールの維持管理の負担軽減を図るとともに、施設の維持管理コストの減少を図る。さらに、専門のインストラクターの指導補助により、児童のレベルに合わせた質の高い授業を行う。また、水泳授業の質の向上・平等性の確保のため、民間施設を活用しない小学校にインストラクターを派遣する。				
実施内容	名和小、渡内小、平洲小、明倫小、富木島小、船島小、大田小、加木屋南小において民間施設等のプールを使用するとともに、全小学校でインストラクターの指導補助による水泳授業を実施した。				
目標に対する評価	民間施設を活用することで維持管理の負担軽減が図られ、また、天候に左右されず円滑に授業を行うことができた。 また、水泳授業の指導補助にインストラクターを配置することで児童に合わせた授業を行うことができた。				
課題・改善点	学校プールの老朽化により民間施設を活用する学校が増えた際に、				

番号	3	事業名	小学校水泳授業民間施設活用事業	事業費	35,133 千円
市内の民間施設のみで秋季までに授業を実施することが難しくなるため、令和6年度(2024年度)より西知多医療厚生組合が設置する健康増進施設を含め、新たな施設の活用を検討する必要がある。					

単位施策 10-2 いじめ・不登校対策を充実させる

【学校教育課】

番号	1	事業名	不登校対策事業	事業費	15,261 千円 (SSW人件費は職員課予算)
令和4年度(2022年度)の計画・目標	不登校傾向等の問題を抱える子どもたちに対して、豊かな人間関係や社会性の育成など、自立への基盤づくりを支援するため、適応指導教室「ほっと東海」の運営や、宿泊体験活動「青空教室」を実施するとともに、スクールカウンセラー並びにスクールソーシャルワーカーを配置し、子どもたちの早期の学校復帰などを支援する。				
実施内容	適応指導教室「ほっと東海」では、教育相談員と教科指導員、サポーターを上野公民館教室及び横須賀教室に各1名ずつ配置し、不登校の要因、不登校による学習の遅れ等をきめ細かく指導している。9月17日から3日間、国立若狭湾青少年自然の家で青空教室を実施した。 また、スクールカウンセラーについては、県からの派遣が充分でない小学校へ4人派遣し、不登校傾向の児童への支援を行い、令和2年度(2020年度)から配置しているスクールソーシャルワーカーは、拠点校を中心に各機関と連携しながら家庭的背景を要因とする不登校傾向の児童生徒に対し、福祉等の観点から効果的な働きかけを行った。				
目標に対する評価	コロナ禍ではあったが、不登校傾向にある児童生徒に対して居場所や学ぶ場の提供、自立のための援助をすることができた。				
課題・改善点	新型コロナウイルス感染症の影響による生活リズムの乱れ等を要因とする登校渋りや、中1ギャップなど複合的な要因により不登校傾向の児童生徒の増加が見受けられることから、教員やほっと東海、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによるグループ支援を強化し、必要に応じて関係機関との連携を深め、不登校の未然防止や解消に繋げていく必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	学校の居場所づくり事業	事業費	17,845 千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	不登校やいじめの原因解消と、子どもたちが抱える問題の早期発見につなげるため、心の不安や体調不良を訴え、保健室などに居場所を求める子どもたちに対し、その相談相手となる養護教諭と連携して対応する「心の相談員」を配置する。				
実施内容	令和4年度(2022年度)は、小学校5校、中学校6校に心の相談員を配置し、複数の目で見守ることにより、相談しやすい環境を整えた。				
目標に対する評価	保健室に養護教諭もしくは心の相談員のどちらかがいることで、来室した児童生徒と話をすることができ、子どもたちに安心感をもたらすことができた。また、気になる子どもの情報共有を行うことで、不登校傾向の子どもの早期発見にもつながり、不安解消への一助となっている。				
課題・改善点	県の養護教諭に欠員が出た際、養護教諭の資格をもつ本市の心の相談員が県採用の養護教諭となることにより心の相談員が欠員となるケースが度々ある。子どもたちが安心して来室できるよう、安定した配置を図る必要がある。				

【学校教育課】

番号	3	事業名	いじめ防止等対策事業	事業費	44 千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	東海市子どものいじめ防止条例の制定を受け、子どものいじめ防止等対策委員会を設置し、いじめの全市的な傾向や実態を把握・分析し、いじめ対策を推進する。 また、子どもたち自身がいじめを防ぐために何ができるかを考える機会とするため、「東海市子どものいじめ防止サミット」を開催する。				
実施内容	平成28年(2016年)4月に東海市子どものいじめ防止条例が施行されたことに伴い、6月と1月に東海市子どものいじめ防止等対策委員会を開催し、本市のいじめの状況や学校での取組み、今後の課題等について協議する予定でいたが、第2回目は大雪の影響により書面開催となった。 また、平成28年度(2016年度)より、「東海市子どものいじめ防止サミット」を立ち上げ、市内18小中学校から選出された代表児童生徒がいじめに対する意見交換を行っており、令和4年度(2022年度)は、オンライン形式で2回、対面形式で2回、合計4回サミットを実施した。各校の代表が、自校の取組状況の報告をしたり、他校の取組に対する質問をしたり、東海市全体として取り組みたいことについて意見を交換した。その結果を受けて、各校においていじめ防止啓発のCMを作成し、サミットにて視聴した。また、サミットの提言を受け、生徒指導研究部会では、いじめ防止の力を育むための「いじめ未然防止				

番号	3	事業名	いじめ防止等対策事業	事業費	44千円
	プログラム」の検証授業を行ったほか、継続してサミットの情報をおたよりとして発行した。				
目標に対する評価	<p>「いじめ防止サミット」の活動として、各校の児童会・生徒会が中心となっていじめ防止のために何ができるのかを考え、啓発のためのCM作成をするなど、子どもたちが主体的に活動をすることができ、「いじめをしない・させない・見逃さない」の意識が高まっている。</p> <p>また、「いじめ未然防止プログラム」が各校で行われ、子どものいじめ防止に向けた取組みが計画的に実施された。</p>				
課題・改善点	<p>いじめの中には、インターネットやSNSによるトラブル、コミュニケーション不足から始まるものもあるため、情報モラル教育の推進や教員の資質向上に取り組むとともに、子どもの自己肯定感を高め、学校に居場所があることを感じられるような魅力的な学校づくりなど、未然防止に力を入れる必要がある。</p> <p>また、いじめ防止サミットで各学校がいじめ防止に向け取組んだ内容を拡散し、継続していじめのない学校づくりに取り組んでいく。</p>				

単位施策 10-3 快適で安全な学校生活を充実させる

【学校教育課】

番号	1	事業名	小中学校等改修事業	事業費	316,560千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	東海市学校施設長寿命化計画に基づく学校施設の老朽化対策としての予防保全と教育環境の質的な向上を併せて実施する長寿命化により、校舎等の改修や設備の取替を計画的に行う。				
実施内容	外壁改修(名和中)、空調機取替(横須賀小、横須賀中)、空調機設置(横須賀小、名和中、横須賀中)、教室転用改修(加木屋小、加木屋南小)、非構造部材改修(加木屋中)、自動火災報知設備取替(富木島小、平洲中、横須賀中)、擁壁改修(名和小)を行った。				
目標に対する評価	令和4年度(2022年度)に実施する施設整備は年度内に完了し、児童生徒が快適に学校生活を送ることができる環境を確保することができた。				
課題・改善点	児童生徒が快適で安全・安心な学校生活を送れるよう学校施設長寿命化計画に基づき、計画的な更新や改修を実施する必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	小中学校トイレ環境改善事業	事業費	13,200 千円
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標	学習環境及び学校での生活環境を充実させるため、清掃委託によるトイレの清掃を行い、トイレの環境改善を図る。				
実施内容	小中学校 17 校（加木屋小学校を除く）の普通教室に面するトイレ 192 カ所の小便器及び洋式大便器の取外し清掃及び配管内の高圧洗浄を行った。				
目標に対する 評価	清掃によりトイレの臭いや汚れが改善され、児童生徒の学習環境及び学校での生活環境の改善を図ることができた。				
課題・改善点	大便器の洋式化など小中学校トイレの環境改善に寄与する事業を今後も計画的に実施する必要がある。				

【学校教育課】

番号	3	事業名	各種サポート事業	事業費	96,352 千円
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標	児童生徒に対し必要な支援ができるようにするため、目的に応じて特別支援教育支援員及び障害児サポーター、読書活動サポーターを配置し、学校生活の支援の充実を図る。				
実施内容	<p>特別支援教育支援員を各小学校に1～3人(計20人)配置し、発達障害の傾向がある児童に対して必要な支援を行った。また、身体障害があるなど、校内生活における安全管理が必要な児童生徒に対し、障害児サポーターを15小中学校に1～4人(計30人)配置し、対象児童生徒の補助等を行った。</p> <p>また、各小学校に読書活動サポーター1人(計12人)を配置し、図書館整備や図書委員会の補助、本の読み聞かせ等を行った。</p>				
目標に対する 評価	特別支援教育支援員の配置により、通常の学級に在籍する発達障害の傾向にある児童生徒が学校生活を送る上で必要な支援を行うことができ、在籍する学級運営に有効であった。さらに、障害児サポーターの配置は障害により校内での安全管理が必要な児童生徒への合理的配慮の提供となり、それぞれの児童生徒が安心して通学し、学校生活を送ることができるようになった。				
課題・改善点	特別な配慮を要する児童生徒が増加傾向にある中で、障害児サポーターや特別支援教育支援員の配置等について十分な検討が必要である。				

単位施策 10-4 出会いと体験の場を提供する

【学校教育課】

番号	1	事業名	林間学習事業	事業費	7,307 千円
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標	自然環境に恵まれた愛知県野外教育センターでの集団宿泊生活や自然体験活動を通して、自己の可能性の発見、他者への思いやりと協調性など、人として持つべき社会性を育むことを目的とする。				
実施内容	小学校5年生全員を対象に、岡崎市の愛知県野外教育センターにおいて、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、1泊2日で自然観察会、ハイキング、クラフトづくり、沢遊び等のレクリエーション活動を実施した。				
目標に対する 評価	新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、1泊2日で実施し、子どもたちが自然豊かな環境での集団生活を通して、よりよい人間関係を築くとともに、通常の学校生活とは異なる体験をすることで心身ともに調和のとれた健全な育成を図ることができた。				
課題・改善点	現地での医療体制が少ないことを想定した対策を検討していく必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	沖縄体験学習事業	事業費	90,525 千円
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標	沖縄の持つ豊かな自然や文化・歴史・風土に触れることにより視野を広げるとともに、ふるさと東海市を客観的に見つめ、平和を愛し、命の大切さを学ぶことを目的とする。				
実施内容	中学校2年生全員を対象に、沖縄市及び渡嘉敷島などにおいて3泊4日の体験学習を実施し、海洋研修による自然体験、平和学習及び沖縄市立中学校での学校間交流などの活動を行った。				
目標に対する 評価	事業実施後のアンケートでは、「語り部の方からの話を聞き、子どもが当たり前のように死んでいく戦争の恐ろしさを感じた。」「姉妹都市である沖縄市の中学校と交流をした際、短い時間であったが話せたのがとても嬉しかった」などの感想があり、95.2%の生徒が「とてもよかった」、「よかった」と回答している。また、生徒が平和等について考える貴重な経験となり、生徒の心に残る体験学習となった。				
課題・改善点	台風など、天候の影響により、急な行程変更が発生することが想定されるため、生徒が安全安心に活動ができ、また、事前学習の成果が達成できるような方策を検討していく必要がある。				

番号	3	事業名	①小学生親善交流事業 ②中学校親善交流事業
		事業費	①5,002 千円（米沢市 2,103 千円、釜石市 2,899 千円） ② 970 千円（米沢市 75 千円、沖縄市 895 千円）
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標	姉妹都市である米沢市や釜石市、沖縄市との交流を通して、相互の歴史や文化の理解を深めるとともに、団員相互の連帯と協調を図ることを目標とする。		
実施内容	<p>① 小学生親善交流事業</p> <p>【米沢市】 市内小学校5年生の代表24名で構成する親善訪問団を2月10日から3日間米沢市へ派遣し、雪灯籠・雪ぼんぼりの制作、上杉雪灯籠まつり・上杉博物館等の見学、雪ん子少年団との交流を実施した。</p> <p>【釜石市】 市内小学校6年生の代表24名で構成する親善訪問団を8月24日から3日間釜石市へ派遣し、釜石市小学生との交流活動、いのちをつなぐ未来館・鶴住居復興スタジアムの見学、被災者の方の講話等を実施した。</p> <p>② 中学校親善交流事業</p> <p>【米沢市】 米沢市の中学生14人を7月26日から3日間受け入れ、平洲記念館、芸術劇場（嚶鳴広場・対面の像）の見学、日本製鉄名古屋製鉄所の出張授業や交流会等を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み、米沢市と協議の上、事業の規模を縮小し、7月28日のみ、オンラインでの交流を実施した。</p> <p>【沖縄市】 沖縄市の中学生12人を12月2日から4日間受け入れ、平洲記念館、日本製鉄名古屋製鉄所の出張授業、横須賀まつりの山車蔵等の社会見学や交流会等を行い、東海市の魅力を十分に伝えることができた。</p>		
目標に対する 評価	<p>① 小学生親善交流事業</p> <p>【米沢市】 子どもたちが、平洲先生と鷹山公との絆が現代に引き継がれていることを自分たちの体験を通し、知ることができた。また、団員たちとの共同作業や体験活動を通して、協調性や相互扶助の精神を身につけることができ、今後の生活に生かそうとする姿勢が見られた。</p> <p>【釜石市】 釜石市を訪れることで震災の悲惨さや防災教育の大切さを身に</p>		

番号	3	事業名	①小学生親善交流事業 ②中学校親善交流事業
		事業費	①5,002千円（米沢市2,103千円、釜石市2,899千円） ② 970千円（米沢市75千円、沖縄市895千円）
		<p>染みて学ぶことができた。また、姉妹都市である両市の関わりや互いの文化や歴史について理解を深めることができた。</p> <p>② 中学校親善交流事業</p> <p>【米沢市】 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和4年度(2022年度)の本事業は一部中止としたため、目標を達成することはできなかった。</p> <p>【沖縄市】 中学2年生で訪れる沖縄市をより深く感じ取ることができた。互いの郷土の違いを知るとともに、東海市の良さを再発見するきっかけとなった。また、おもてなしをする立場として、相手に対する気遣いや、積極性を学ぶことができた。</p>	
課題・改善点	団員たちが本事業を通して学んだことを他の児童生徒にも伝え、市全体で姉妹都市の文化や歴史等について理解を深めていく必要がある。		

単位施策 10-5 食の大切さと楽しさを理解させる

【学校教育課】

番号	1	事業名	食育推進事業	事業費	866,548千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	<p>老朽化した施設の修繕及び厨房備品を更新し、安全な学校給食を提供する。また、地場産物の利用拡大、地元企業との連携、献立の工夫等により楽しい学校給食を提供する。</p> <p>新型コロナウイルス感染防止対応で、喫食形体の変化などがされていても、子どもたちの成長に必要な摂取カロリーを満たすことができる適切な学校給食を提供する。</p>				
実施内容	<p>施設面では、加木屋調理場の外壁改修工事、屋上防水改修工事、コージェネレーション設備等取替工事及び、明倫調理場・加木屋調理場の廃水処理施設整備工事を行った。厨房備品については、明倫調理場のスチームコンベクションオープン2台を更新した。</p> <p>献立については、愛知県等から無償提供のあった、にじますの甘露煮等を使用した献立や、毎月10日には「トマトの日」、19日には「東海市もぐもぐ食育デー」として、地元企業と連携したトマト給食や、地場産物を多く利用した特別献立、また、「姉妹都市の郷土料理を味わう日」として、姉妹都市の郷土料理を取り入れた学校給食の提供を行った。</p>				

番号	1	事業名	食育推進事業	事業費	866,548 千円
	<p>残菜量については、毎月 19 日には「残さず食べよう平洲くんポスター」を各クラスに掲示し、学校と栄養教諭が連携して食育指導の中で啓発を行ったり、食べ残しの多い献立については、栄養バランスを考えながら味の工夫を行ったりした。</p>				
目標に対する評価	<p>調理業務環境を整えることにより、安全な給食の提供を行うことができた。</p> <p>また、地元企業との連携、地場産物や郷土料理を取り入れたことにより、地域の食文化や食に関する産業の理解を深めることができた。</p> <p>残菜量については、令和 3 年度(2021 年度)が 21,998 kg、令和 4 年度(2022 年度)が 22,305 kg で、令和 3 年度(2021 年度)に比べて 307 kg 増加となった。理由としては、新型コロナウイルス感染症防止対策に伴い、全員前を向いて、会話をしないで食べる黙食等により、給食を楽しみと思える児童生徒が減少したことや、部活動や外出自粛等での活動量の減少により残食が増えたこと、また、新型コロナウイルス感染拡大等により当日の欠食者が増えたことも影響していると考えられる。</p> <p>残菜量の削減を図るため、健康な体をつくるためには必要な量であることを伝え、栄養教諭と協力しながら、給食への興味、食の大切さや食べる意欲を高める食育指導を継続して行っていく必要があると考えている。</p>				
課題・改善点	<p>老朽化した施設・設備の計画的な更新や修繕を行い、引き続き安全な給食を提供する必要がある。</p>				

施策 11 学校、家庭、地域が連携して子どもの健全な成長を支える

単位施策 11-1 地域に開かれた学校をつくる

【学校教育課】

番号	1	事業名	学校支援協議会設置事業	事業費	4,043 千円
令和 4 年度(2022 年度)の計画・目標	<p>保護者や地域住民に学校の運営、支援、評価に対する理解と協力を得つつ、地域のボランティアに支えてもらう開かれた学校づくりを進めるため、小学校で学校支援協議会を運営する。</p>				
実施内容	<p>全ての小学校において、学校運営協議会から学校支援協議会へ移行し、地域住民が学校を支える仕組みづくりがより具体化した。また、平成 24 年度(2012 年度)より配置したボランティアコーディネーターを活用して、学校のニーズに基づいて、地域住民が学校運営に参画する仕組みを構築した。</p>				

番号	1	事業名	学校支援協議会設置事業	事業費	4,043 千円
目標に対する評価	<p>令和4年度(2022年度)は6,889人が学校支援ボランティアとして活動しており、前年度に引き続き、令和元年度(2019年度)以前と比較して減少しているが、これは新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティア活動を中止していた時期があったことや活動内容を一部縮小したことによるものである。学校評価アンケートでは、約7割の地域住民が「学校からの協力依頼があれば、できるだけ協力したい」と回答しており、今後の事業への活かし方を検討していく。</p>				
課題・改善点	<p>ボランティアコーディネーターを活用して、学校のニーズと地域住民のボランティアへの意欲とのマッチングをする必要がある。</p>				

【学校教育課】

番号	2	事業名	学校評価事業	事業費	1,203 千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	<p>学校運営の改善を図り、開かれた学校、地域に信頼される学校づくりを進めるため、各小中学校で学校評価を実施する。</p>				
実施内容	<p>児童生徒、保護者、教員及び地域に対し、それぞれの学校の方針や学校運営の方向性等についてのアンケートを実施した。また、教育活動、学校運営の自己評価も行い、アンケート結果とともに公開した。経年変化を見ていく項目と重点に絞る項目と区別をしっかりとアンケート項目を精選した。</p>				
目標に対する評価	<p>学校の重点目標を明確にしたアンケートを実施することにより、今年度取り組んできた教育活動を客観的に振り返ることができた。また、その結果を基に、来年度の教育方針を立てる一助となった。さらに、アンケート項目を精選したことにより、成果と課題が明確になった。</p>				
課題・改善点	<p>より評価しやすいアンケート項目の検討を行うとともに、学校評価アンケート以外での評価指標の検討を行っていく必要がある。</p>				

単位施策 11-2 笑顔と愛にあふれる子どもを地域の連携で育てる

【社会教育課】

番号	1	事業名	放課後子ども総合プラン推進事業	事業費	155,622 千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	子どもたちの安全で安心な居場所の提供と、多様な体験活動を推進すると共に、地域全体で子どもの健全育成を図るため、子ども教室と放課後児童クラブを連携して実施する。				
実施内容	<p>子ども教室では、小学校の特別教室等の施設を活用し、地域住民等の協力を得て、文化活動やスポーツ、学習活動等を実施した。ものづくり特別教室（ものづくり道場）については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら実施した。</p> <p>放課後児童健全育成事業では、保護者が就労等で昼間家庭にいない小学1年生から6年生までの全学年の児童を対象に生活の場と遊びの場を提供し、安全・安心な居場所づくりを行った。</p> <p>放課後子ども総合プラン運営委員会を9月と3月に開催した。</p>				
目標に対する評価	<p>子ども教室と放課後児童健全育成事業を連携して実施し、子どもたちにとって安全・安心な居場所を確保することができた。</p> <p>子ども教室については、令和4年度(2022年度)より小学校の課外活動を廃止したため、児童のスポーツ等の体験機会の一部創出するため、原則土曜日に1教室を拡充して実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各体験教室の1教室あたりの人数制限をしていたが、多くの児童が参加し、様々なスポーツ等の体験機会を提供できた。</p> <p>放課後児童健全育成事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部閉所したケースはあるが、概ね新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた上で、児童の預かりを実施し、就労する保護者の支援ができた。</p> <p>放課後子ども総合プラン運営委員会を9月と3月に開催し、令和元年度(2019年度)以来となる視察を実施した。加木屋小学校の子ども教室と放課後児童クラブの一体型運営の視察を行い、学校教育課、女性・子ども課と連携して総合的に協議することができた。</p> <p>【子ども教室】 12 小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ参加者数(体験教室) 9,008 人(前年度比較 5,529 人増) 1 回当たり 11.1 人 ・教室開催回数 810 回(前年度比較 459 回増) ・延べボランティア講師数 1,274 人(前年度比較 781 人増) <p>【ものづくり特別教室（ものづくり道場）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施ブース数 21 ブース(事前予約 13 ブース、当日参加 8 ブース) 				

番号	1	事業名	放課後子ども総合プラン推進事業	事業費	155,622 千円
	<p>・来場者数 延べ 1,200 人 【放課後児童健全育成事業】 12 小学校 平日 1 日当たり平均利用人数 767 人(前年度比較 109 人増)</p>				
課題・改善点	<p>子ども教室は、人気教室にとられることなく、様々な内容の教室に取り組み、豊かな体験活動の場を提供していく。小学校の課外活動の廃止に伴い、地域の活動団体等の協力を得て、スポーツや文化活動の体験機会の提供に努める。</p> <p>放課後児童健全育成事業は、児童を安全・安心に預かることができるよう、適切なクラブ室や指導員の確保が肝要であるが、利用者数が増加しているクラブがあるため、利用者の増加状況に応じて、クラブ数や実施場所の拡大、指導員の確保に努める必要がある。</p> <p>「新・放課後子ども総合プラン」に基づき、子ども教室と放課後児童健全育成事業の一体型を推進する。</p>				

【社会教育課】

番号	2	事業名	学習支援教室開催事業	事業費	2,149 千円
令和 4 年度 (2022 年度)の 計画・目標	<p>家庭学習が十分でなく、学習習慣が身につけていない中学生を対象に、学習する場を提供して生徒の居場所をつくとともに、学習習慣を身につけることで基礎学力の向上を支援する。また、市内在住の生徒を広く受け入れるため、開催場所を市内南北 2 か所に設定して実施する。</p>				
実施内容	<p>市内の 6 中学校の全学年生徒を対象に、毎週土曜日及び日曜日に市内南北 2 か所で実施し、学習支援員等による学習の支援を行った。</p> <p>実施回数 北地区(日曜日) 49 回 南地区(土曜日) 49 回 延べ参加者数 北地区(日曜日) 615 人 南地区(土曜日) 886 人</p>				
目標に対する 評価	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、教室の一部を中止したことで、当初予定より実施回数は減少したが、生徒からは「課題や学習について相談できる場があり安心できた。」「分からないところを丁寧に教えてもらえて良かった。」等の感想があり、学習支援を通じて、生徒の学習習慣の定着や学習意欲の向上につながったと考える。</p>				
課題・改善点	<p>参加希望生徒が増加傾向であるため、開催場所の選定等を含め調整が必要である。</p>				

番号	3	事業名	ふれあい交流推進事業
		事業費	200 千円(当初:300 千円 新型コロナウイルス感染症対策のため 1 中学校区で未実施)
令和 4 年度 (2022 年度)の 計画・目標	子どもの社会性をはぐくみながら地域との交流を図る場を提供するため、幼児、小学生、中学生等の異年齢の交流や地域を始めとした大人との交流を創出する「ふれあい交流推進事業」を実施する。		
実施内容	<p>大人と子どものふれあい活動が活発な上野中学校区、平洲中学校区、横須賀中学校区のふれあい交流事業実行委員会等に委託し、異年齢の子ども同士の交流や地域住民と子どもとの交流の場を提供の計画をした。</p> <p>上野中学校区では、あいさつの大切さや意義を学ぶため、中学生が中心となり、登校している児童や地域の方とあいさつを交わす「上中校区あいさつ運動」等を実施した。また、保育園と小学校の交流として、小学生が新入生を温かく迎え入れるよう掲示物を作成した。</p> <p>平洲中学校区では、小学生、中学生、保護者、地域住民が協働して、校舎内外の整備及び清掃活動を行う「環境整備活動」等を実施した。</p> <p>また、横須賀中学校区では、4 月から横須賀中学校に入学する小学 6 年生を対象にした「卒業記念ウォークラリー大会」を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。</p> <p>上野中学校区延べ参加人数 1,652 人 平洲中学校区延べ参加人数 700 人 横須賀中学校区 中止</p>		
目標に対する 評価	<p>異なる年代の子どもや大人に様々な活動を通して、貴重なふれあいの場を提供することができた。</p> <p>上野中学校区では、異年齢の子どもを思いやり、温かく迎え入れるための社会性、協調性を高めることができた。</p> <p>平洲中学校区では、勤労の精神を養い、地域への愛着の気持ちを高めることができた。</p> <p>横須賀中学校区では、小学 6 年生が入学前に中学生等とふれあうことで、入学時の不安や抵抗感の軽減を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を中止したため、未達成となった。</p>		
課題・改善点	子どもが社会性を身につけるために、異なる年代の子どもや大人がふれあう機会は有効であるため、継続して実施していく必要がある。		

施策 12 青少年が健全で心豊かに成長できる環境をつくる

単位施策 12-1 青少年が活躍する場をつくる

【社会教育課】

番号	1	事業名	20歳の集い開催事業	事業費	3,665千円
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標	20歳の集いを開催することにより、ふるさと東海市を意識する機会、また将来を担って活躍することを励ます場として「東海市20歳の集い」を開催する。				
実施内容	20歳となる参加者が将来の担い手としての自覚を持ち、社会人として責任ある行動ができるよう祝い励ます20歳の集いを実施し、1,000人が参加した。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、2部制での実施とした。 また、20歳の集い実行委員会を組織し、20歳となる参加者目線でのアイデアを盛り込んだ企画・運営を実施した。				
目標に対する 評価	新型コロナウイルス感染症の影響により、感染症対策を講じるなど制限のある中での企画運営となったが、実行委員が団結し、多くの参加者に20歳としての自覚を促す機会を提供することができた。				
課題・改善点	令和4年度(2022年度)から民法の改正により成年年齢が18歳となったが、18歳は進学や就職を控える多忙な時期であるため、ふるさと東海市を意識する機会として、また、将来を担って活躍することを励ます場として、引き続き20歳を対象とした「20歳の集い」として継続して実施していく必要がある。また、20歳を迎える市民等により実行委員会を組織し、引き続き柔軟な発想力を生かした企画運営を推進する必要がある。				

単位施策 12-2 青少年の非行を防止する

【社会教育課】

番号	1	事業名	青少年育成センター設置事業	事業費	4,945千円
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標	青少年が心身ともに成長できるように学校、警察、家庭、地域や関係機関と連携を図りながら、街頭パトロールや非行防止キャンペーンなど、青少年の非行防止及び健全育成を図るための活動を行う。				
実施内容	青少年育成員による街頭パトロールや、少年指導員による青色防犯パトロール、情報モラル教室、非行防止教室などの有害な環境を浄化する活動を行った。また、小中学生、保護者に非行防止啓発チラシを配布した。				
目標に対する 評価	地域・学校等各種関係団体及び機関が連携を図り、積極的に啓発活動を行うことで、青少年の非行防止及び健全育成に一定の成果を挙げている。				
課題・改善点	地域の実情に合った活動スタイルを模索し、効果的に青少年の非行				

番号	1	事業名	青少年育成センター設置事業	事業費	4,945千円
防止及び健全育成の啓発を行っていく必要がある。					

【社会教育課】

番号	2	事業名	青少年居場所づくり推進事業	事業費	434千円（当初予算額：641千円 コロナ禍のため一部事業未実施）
令和4年度（2022年度）の計画・目標	良好な対人関係づくりをめざす青少年の人間形成を支援し、青少年と大人の絆づくりを目的としたスポーツ大会を通して、自分自身を鍛え、人間関係を築き上げる契機とする。				
実施内容	ふれあい活動として、中学生対象のボルダリング大会及びカートレースを実施した。小学生対象のボルダリング大会はコロナ禍の影響により未実施となった。				
目標に対する評価	一部未実施となったものの、ふれあい活動を通して、青少年と大人との良好な関係づくりが図られ、青少年の健全育成において、成果があったものと考えている。				
課題・改善点	地域、警察、関係機関との連携を一層深め、小中学校ごとの状況把握に努め、より効果的な事業を企画・立案し、ふれあい活動を充実させていく必要がある。				

施策 13 マナーが守られ思いやりにあふれる地域をつくる

単位施策 13-1 子どもが社会性を身につけ思いやる心を育てる

【社会教育課】

番号	1	事業名	社会性を身につける事業	事業費	0千円
令和4年度（2022年度）の計画・目標	該当事業なし				
実施内容	—————				
目標に対する評価	—————				
課題・改善点	—————				

単位施策 13-2 思いやりに感謝し親切にできる地域をつくる

【社会教育課】

番号	1	事業名	家庭教育推進事業	事業費	798 千円
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標		子育て中の保護者の悩みを軽減し、家庭教育力を向上させるため、未就学期から思春期までの様々な世代に合わせた講座・シンポジウムを開催する。			
実施内容		<p>【家庭教育支援事業】 未就学児をもつ保護者同士がつながりをもち、地域の家庭教育力の向上を図ることを目的に4回講座を実施した。 延べ参加者数 57人</p> <p>【家庭教育シンポジウム開催事業】 現代の子どもを取り巻く複雑な環境を家庭教育の観点から分かりやすく課題整理し、保護者の悩み解決の一助とするとともに、地域とのつながりを踏まえた家庭教育力の向上を図るため、家庭教育に関するシンポジウムを1回開催した。 参加者数 107人</p>			
目標に対する 評価		講座等に参加することにより、保護者同士の交流が持てたり、子どものしつけやコミュニケーションの取り方等について理解を深めたり、また、子どもの言動等を理解し、親子間でのわだかまりを解消する等、家庭教育への意識を高めることができた。			
課題・改善点		家庭内等で保護者と子どもの会話やふれあいが増進する方法を伝え、保護者と子どもの良好な関係を築いた上で、正しいマナー等を教え、保護者自身も再確認することができる機会を提供していく。			

施策 14 楽しみや生きがいを感じるまちをつくる

単位施策 14-1 学び教え合う学習活動を充実させる

【社会教育課】

番号	1	事業名	地区公民館等活動推進事業	事業費	5,045 千円
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標		地区公民館等は、地域の学びの場、地域づくりを推進するため、高齢者世代、子育て世代などを対象とする魅力的な講座等を引き続き実施する。			
実施内容		<p>地域における生涯学習の場として、その地域の特性に合った講座等を住民に提供した。</p> <p>開催講座数 218 講座(前年度比較 27 講座増) 延べ開催数 1,142 回(前年度比較 150 回増) 延べ参加者数 14,873 人(前年度比較 1,972 人増)</p>			

番号	1	事業名	地区公民館等活動推進事業	事業費	5,045 千円
目標に対する評価	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のための制限が緩和されたことに伴い、開催講座数、延べ開催数及び参加者数は増加傾向となっている。その中でも従来の高齢者世代、子育て世代に対する講座に加え、日常生活に必要なものを作る手芸講座を開催したことで、幅広い世代を対象とした、地域住民の生涯学習の場を提供することができた。</p> <p>また、一部の地区公民館では、星城大学の学生に講座を企画・運営してもらい、地域との交流を図ることができた。</p>				
課題・改善点	引き続き、地域ニーズに対応した講座を実施する。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	地域サロンカフェ推進事業	事業費	416 千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	新しい利用者や利用者同士の交流が促進されるように、住民が気軽に集い交流できる地域サロンカフェを実施する。				
実施内容	<p>加木屋市民館、三ツ池市民館、緑陽市民館、船島市民館、大田市民館、加家公民館、高横須賀公民館、平島市民館、富田公民館、富木島公民館の合計10館で実施した。</p> <p>地域住民の交流の場としてサークルの紹介、活動内容や作品等の展示を実施した。</p> <p>延べ参加者数 2,527人(前年度比較 1,114人増) 延べ開催回数 72回(前年度比較 37回増)</p>				
目標に対する評価	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のための、一部カフェを中止したことで参加者及び開催回数が依然として少なくなっているが、感染症対策を講じた上で、サロンカフェを実施することで、地域住民のふれあい交流の場を提供することができた。</p> <p>地区公民館・市民館を利用したことがない人が来館するなど、新たな人との交流が生まれ、サークル紹介や作品を展示することでお互いの活動を知ることができた。</p>				
課題・改善点	新規利用者の確保に向けて、魅力ある企画・展示を検討する。				

【社会教育課】

番号	3	事業名	創造活動・歴史文化交流施設 ワークショップ開催事業	事業費	5,500 千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	新施設の開館に向け、新施設への理解を深め、愛着を育むとともに、地元の気運を高めていくことを目的としてワークショップを開催する。				
実施内容	「文化センター閉館イベントワークショップ」と題して、全4回の日程で開催した。				

番号	3	事業名	創造活動・歴史文化交流施設 ワークショップ開催事業	事業費	5,500千円
	ワークショップでは、「山車」をテーマに、参加者が思い思いに創造した「夢の山車」を創り上げるとともに、文化センター展示室の壁面に絵を描く等により、「文化センター閉館イベントワークショップ展示会」を創り上げた。また、ワークショップの中で映像撮影も行い、展示会に合わせて上映を行った。				
目標に対する評価	文化センターの閉館を惜しみつつも参加者に新施設への関心を持っていただける機会とすることができた。				
課題・改善点	新施設の開館に向け、継続して地元の気運を高める等の目的に対して、効果的な内容を検討しながら、引き続きワークショップを実施する。				

単位施策 14-2 読書に親しみ楽しむ機会を増やす

【中央図書館】

番号	1	事業名	子ども読書活動推進事業	事業費	4,632千円
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標	子どもが自然に読書に親しみ、言葉を学び、感性を磨き、豊かな表現力と創造力を醸成するため、子どもが本に触れる機会の拡大と読書環境の充実を図る。				
実施内容	<p>【子ども文庫(小学校)事業】 小学生に薦めたい本をセットした「わくわく文庫」を1~6年生は2か月に1回、特別支援学級は学期ごとに学校・学級間で巡回させ、全学年で609冊の児童書を更新し、小学校間の移動時には、書籍消毒機を使用して本を除菌・消毒し、子どもの読書環境を整備した。また、小学校での読書支援では、児童向けのブックトークやおはなし会に加え本の修理などを実施した。</p> <p>【子ども司書体験講座】 小学4~6年生を対象に、図書館を身近に感じ、本や読書に対する理解を深めてもらうために、窓口業務を含む図書館司書の仕事を体験する講座を実施した。</p> <p>【小中学生読書状況アンケート】 「第二次東海市子ども読書活動推進計画」の進行管理の基礎資料とするため、市内小学4・6年生と中学2年生を対象に、読書意識や読書量の調査を実施した。</p>				
目標に対する評価	小学生に対する事業では、教室内という身近な場所に本を配置する巡回回数を増やし、子ども達が多くの本に触れたり、図書館の施設や仕事に興味を感じたりしてもらうことができた。				
課題・改善点	「わくわく文庫」は児童の生活に定着してきているが本の傷みが多く出ているため、今後も計画的に更新していく必要がある。				

【中央図書館】

番号	2	事業名	中央図書館運営事業	事業費	35,681 千円
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標	生涯学習の拠点として広く市民に親しまれる図書館を目指し、市民の多様な要望に応えられる図書館運営を行う。				
実施内容	<p>幅広い年齢層の市民が本に親しみ、必要とする情報を得られる場を提供した。子ども達を物語の世界へ誘い込むきっかけづくりとして、読み聞かせボランティアの協力による「お話友の会」等の実施及び読み聞かせ活動の活性化を図るため、読み聞かせに関する初心者向け講座を開催した。</p> <p>また、図書館をより身近に感じてもらうため、各種展示会や「本のリサイクル日」等を実施するとともに、小学生の施設見学の受入れ及び読書感想文コンクールの実施など、学校との連携も図った。</p>				
目標に対する 評価	<p>市民の生涯学習機会を充実させるため様々な事業を実施できた。子ども向けの「お話友の会」は60回実施し、計755人が参加、「読み聞かせボランティア講座」は言葉の発達からアプローチした絵本の選び方などと講師の読み聞かせの実演を合わせた講義となり、今後の読み聞かせ活動のスキルアップにつなげることができた。子どもの読書習慣を形成していくうえで、読書の幅を広げていける環境を整えられたこと及び保護者に対して読み聞かせの大切さを啓発することができた。</p> <p>また、一般向けのイベントや図書の展示を季節や時事に合わせて実施し、幅広い世代に図書館をアピールしたと評価できる。</p>				
課題・改善点	中央図書館は開館から45年が経過し、施設の老朽化に加え駐車場の不足等が課題であり、計画的な施設修繕や市民の利便性の向上を検討する必要がある。図書館が市民にとって利用しやすく、いつ来館しても興味をもてる本が紹介されている環境の整備と蔵書の充実を目指していく。				

【中央図書館】

番号	3	事業名	日本福祉大学図書館連携事業	事業費	385 千円
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標	市民の読書機会を増やし、生涯学習活動を充実させるため、日本福祉大学東海キャンパス図書館と連携する。				
実施内容	日本福祉大学東海キャンパス図書館に一般市民向けの本・雑誌を配本した。なお、令和4年度(2022年度)は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一般開放は休止された。				
目標に対する 評価	小説や実用書等一般市民向け図書111冊と雑誌20誌を配本し、市民の生涯学習の場を増やすことができた。				

番号	3	事業名	日本福祉大学図書館連携事業	事業費	385 千円
課題・改善点	一般市民が大学図書館を気軽に利用できるよう、「図書館だより」等で周知を図る必要がある。				

【中央図書館】

番号	4	事業名	中央図書館空調設備改修事業	事業費	133,694 千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	図書館施設としての機能の維持を図るため、経年劣化している空調設備及び受変電設備を更新し、利用しやすい図書館環境を維持確保する。				
実施内容	中央図書館空調設備等改修、電源設備改修工事を実施した。				
目標に対する評価	改修工事により利用しやすい図書館環境を維持確保することができた。なお、4か月の休館期間中、中央図書館機能を横須賀図書館に移管して対応し、読書機会の確保に努めた。				
課題・改善点	利用しやすい図書館環境を維持確保するため、東海市立中央図書館・横須賀図書館個別施設計画に基づき、計画的な更新や改修を実施する必要がある。				

施策 15 だれもが気軽にスポーツライフを楽しむ元気なまちをつくる

単位施策 15-1 スポーツに親しむ機会を提供する

【スポーツ課】

番号	1	事業名	東海市ハーフマラソン開催補助事業	事業費	30,000 千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	市民のスポーツに対する興味関心を高め、スポーツ振興及び心身両面にわたる健康の保持増進につなげていくとともに、全国からの交流人口を拡大し、にぎわいの創出と地域経済の活性化を図っていくため、ハーフマラソン大会の開催に向けて補助を行う。				
実施内容	開催日：令和4年（2022年）12月11日 場所：名鉄太田川駅周辺一帯 種目：【ハーフマラソンの部：定員3,000名】 2,020名 参加 【10kmの部：1,000名】 753名 参加 【2kmの部：1,000名】 821名 参加				
目標に対する評価	3年ぶり2回目の開催となり、県内外から3,594名が参加したことで交流人口の拡大及び太田川駅前を中心としたにぎわいの創出と地域経済の活性化を図ることができた。				
課題・改善点	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、参加申込が定員に満たなかったため、募集方法を改善する必要がある。				

【スポーツ課】

番号	2	事業名	総合型地域スポーツクラブ補助事業	事業費	24,500 千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	総合型地域スポーツクラブである一般社団法人スポーツクラブ東海の活動に対して補助を行い、市民のスポーツ振興並びに健康増進を図るため、各競技による市民大会等の実施や、幅広いニーズに応じたスポーツ教室等を開催する。				
実施内容	<p>【競技スポーツ部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民大会等の実施(25競技種目で約80回 ※昨年度は14競技種目で約70回) ・小中学生を対象とした教室等の実施 ・指導者講習会、審判講習会等の実施 <p>【スポーツ振興部門】</p> <p>「春だ!わくわくキッズスポーツ体験会」や「レディースリラクゼーションヨガ」をはじめ子どもから大人まで気軽に参加できるスポーツ教室を14教室開催した。</p> <p>【一般会員数】 (R3) (R4)</p> <p>競技部門: 4,764人 → 4,895人</p> <p>振興部門: 333人 → 316人</p> <p>計 5,097人 → 5,211人</p>				
目標に対する評価	<p>一般会員数については、昨年度と比較して微増となった。</p> <p>競技スポーツ部門においては、新型コロナウイルス感染症による行動制限等が緩和され、多くの市民大会が実施できた。また、中学生を対象としたスポーツ教室であるジュニアクラブにおいて、昨年度に引き続き新たな種目を実施するなど、ジュニア世代のスポーツ振興及び競技力の向上を図ることができた。</p> <p>スポーツ振興部門においては、新規で2つの教室を実施し、新たなニーズへの対応を図ることができた。</p>				
課題・改善点	<p>会員数は微増だが、スポーツ教室で参加者が規定の人数に届かず未実施となった教室もあるため、市民のニーズに対応した事業を実施するとともに効果的なPRに努める必要がある。</p>				

【スポーツ課】

番号	3	事業名	スポーツ推進委員会設置事業	事業費	5,572 千円(当初:7,500 千円)
令和4年度(2022年度)の計画・目標	各種スポーツの市民大会運営や、各種団体との連携によるスポーツ教室・スポーツイベント等を開催し、市民のスポーツ振興及び健康増進を図る。				
実施内容	【会議関係】				

番号	3	事業名	スポーツ推進委員会設置事業		
		事業費	5,572千円（当初:7,500千円）		
		定例スポーツ推進委員会	年 12 回		
		【大会関係】			
		・第13回市民ミニテニス大会			
		令和4年（2022年）7月9日	参加者	46人	
		・夕涼みモルック			
		令和4年（2022年）8月20日	参加者	64人	
		・太田川健康ウォーキング			
		令和4年（2022年）10月23日	（R2参加者）	164人	
			（R4参加者）	108人	
		※R3は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止			
		・体力テスト&ニュースポーツ体験会			
		令和4年（2022年）11月20日	（R3参加者）	54人	
			（R4参加者）	160人	
		・第14回市民ミニテニス大会			
		令和5年（2023年）2月5日	参加者	44人	
		以上の活動の他にも、市や地域のスポーツ活動に関わるとともに、知多北地区社会体育連絡協議会の活動を通じて、近隣市町との交流及び情報交換を実施した。			
目標に対する評価	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、コロナ禍前のようにイベントを開催することができ、市民の健康増進に寄与することができた。				
課題・改善点	新型コロナウイルス感染症による行動制限の余波や数年ぶりの開催で認知されていない等の理由で、コロナ禍前よりは人数が減少しているため、実施事業のPR活動等を推進する必要がある。				

単位施策 15-2 スポーツで活躍する人を支援する

【スポーツ課】

番号	1	事業名	愛知万博記念市町村対抗駅伝大会派遣事業	事業費	1,310千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	一般社団法人スポーツクラブ東海陸上競技部や愛知製鋼陸上競技部の協力のもと、練習会、合宿、記録会及び選手選考会を行い、新たな小中学生の選手の発掘、競技力の向上及び選手の育成を図る。また、本大会において、5位入賞を目指す。				
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・長距離練習会 開催日：6月～9月の第1・3水曜日 参加者 165人（4か月の合計） ・東海市チャレンジ陸上記録会 				

番号	1	事業名	愛知万博記念市町村対抗駅伝 大会派遣事業	事業費	1,310 千円
			開催日：令和4年（2022年）6月25日 参加者 67人 ・代表候補選手強化合宿 開催日：令和4年（2022年）8月14日～16日 参加者 20人（選手14人 スタッフ6人） ・東海市代表選手選考会 開催日：令和4年（2022年）10月1日 参加者 24人		
目標に対する 評価			実施にあたり、多くの参加者を募ることができ、新たな選手の発掘及び育成ができた。また、本大会では市の部で6位入賞を果たすことができた。		
課題・改善点			引き続き、本事業を通して、新たな選手の発掘及び育成に努め、次年度大会では5位以内入賞に向け、記録会等の内容の充実に努める必要がある。		

【スポーツ課】

番号	2	事業名	ふるさと大使等スポーツ連携 交流事業	事業費	1,356 千円
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標			市民と東海市ふるさと大使が交流する事業を実施することで、東海市ふるさと大使である企業チームの認知度を高め、応援していく機運を醸成し、市民の一体感や活力を生み出すとともに子どもたちに夢やスポーツの楽しさを伝える。また、東海市ふるさと大使を中心に包括連携協定を締結している東レなどのトップアスリートチームや地域の優れた人材と協力し、技術指導や試合観戦をすることで、小中学校の競技力の向上や将来トップアスリートになることを目標とする意識の向上を図る。		
実施内容			【企業連携】 ①企業 日本製鉄東海R E X、愛知製鋼陸上競技部、大同特殊鋼ハンドボール部フェニックス、東レアローズ ②スポーツ教室 日本製鉄東海R E Xによる市内スポーツ少年団軟式野球チームと市内中学校軟式野球部を対象に野球教室を開催。 ・実施日：令和4年（2022年）12月3日（土）、12月17日（土） 参加者数合計 249名 ③Fan!Fun!Fan! 日本製鉄東海R E X、愛知製鋼陸上競技部、大同特殊鋼ハンドボー		

番号	2	事業名	ふるさと大使等スポーツ連携 交流事業	事業費	1,356 千円
		<p>ル部フェニックスによるスポーツ交流事業の開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日：令和4年（2022年）9月10日（土） 参加者数 280名 <p>④試合観戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Vリーグ 東レアローズ対NECレッドロケッツの試合を観戦。 実施日：令和5年（2023年）1月21日（土） 参加人数 23名 ・Tリーグ トップおとめピンポンズ名古屋対木下アビエル神奈川の試合を観戦。 実施日：令和5年（2023年）2月26日（日） 参加人数：31名 <p>【トップアスリート講習】</p> <p>2015世界選手権ダブルス銅メダリスト興猶くるみ氏の協力のもと、バドミントン講習会を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日：令和5年（2023年）2月23日（木・祝） 参加人数：24名 <p>【その他】</p> <p>スポーツクラブ東海の各競技部による小中学生を対象とした技術指導及び、指導者に対する講習会を実施。（R4年度（2022年度）：サッカー、水泳、ソフトテニス、剣道、卓球、バスケットボール）</p>			
目標に対する 評価		<p>新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度実施できなかったスポーツ教室を開催することができた。また、試合観戦やFan!Fun!Fan!の実施により、多くの子供たちがトップアスリートと触れ合うことができ、子どもたちの体力や技術の向上を図ることができた。</p>			
課題・改善点		<p>引き続き、ジュニア世代にトップアスリートと触れ合う機会を多く与えられるよう、市内企業チーム等と連携し、子どもたちの体力や技術の向上を図る必要がある。</p>			

施策 16 文化に親しみ心豊かなまちをつくる

単位施策 16-1 市民の文化芸術活動を支援する

【文化芸術課】

番号	1	事業名	文化祭開催補助事業	事業費	5,600 千円
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標		<p>市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、市民文化活動の発表及び鑑賞の場、交流の場として開催する東海市文化祭に対して補助する。</p>			
実施内容		<p>開催日：令和4年(2022年)11月5日～6日</p>			

番号	1	事業名	文化祭開催補助事業	事業費	5,600千円
	<p>場 所：東海市民体育館 内 容：日頃の成果発表の場、発表作品の鑑賞の場として、以下のとおり展示等を行った。</p> <p>【文芸部門】詩作大会(中止)、短歌大会、俳句大会、川柳大会 【美術部門】絵画展、書道展、写真展、工芸展、切手・絵手紙展、市民茶会、華道展、さつき・山野草展、小中学校児童生徒造形・書写秀作展</p> <p>その他、似顔絵コーナーや沖縄体験学習コーナーを設置した。</p>				
目標に対する評価	<p>コロナ禍ではあったが、対策を十分に講じ、2年ぶりに開催することができた。新型コロナウイルス感染症の影響により東海市民体育館で開催した平成30年度(2018年度)に比べ、来場者も出品者数も減少したが、市民が文化・芸術活動に触れる機会を提供することができた。感染症が収束に向かっていることから、街全体にコロナ禍前の賑わいが溢れるよう、引き続き、市民文化活動の発表及び鑑賞の場、交流の場として開催する東海市文化祭に対して補助していきたい。</p>				
課題・改善点	<p>令和5年度(2023年度)は、例年と比べ、一部会場に変更予定があるため、会場レイアウトを関係団体と調整する必要がある。また、展示を中心とした文化祭の形式から、来場者が文化的な体験ができるワークショップなどを継続して実施し、新しい文化祭のかたちづくり、次世代への継承などを行っていく必要がある。</p>				

単位施策 16-2 感動が生まれる文化芸術を提供する

【文化芸術課】

番号	1	事業名	芸術劇場自主文化(鑑賞・にぎわい)事業	事業費	69,349千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	<p>文化創造プランを踏まえ、市民が優れた文化芸術に身近に参加・体験ができ、市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいづくり」の理念を掲げ、東海市芸術劇場において、様々な事業を実施する。</p>				
実施内容	<p>「東海市ひとづくりパートナーシップ」を締結した公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団と吉本興業株式会社を中心に鑑賞・にぎわい事業等を実施した。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、内容が変更となる公演があった。</p> <p>【公演】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野村萬斎 狂言の世界、キエフ・クラシック・バレエ、超オペラペラペラコンサート「ラ・ボエーム」、吉本新喜劇&バラエティ、第7回東海市紅白歌合戦、0歳からのわくわくオーケストラ等、16公演を実施 				

番号	1	事業名	芸術劇場自主文化(鑑賞・にぎわい)事業	事業費	69,349千円
	(実入場者数 10,730 人、入場率 67.3%) ・交流パフォーマンス 267 回 (実出演者 560 人、入場者数 3,836 人) 【美術展】 ・木之下晃メモリアル作品展・公募展 (出品者数 13 人) ・交流ギャラリー 16 展示				
目標に対する評価	幅広いジャンルの事業を実施し、様々な年代層の方の参加があり、「にぎわいづくり」をはじめとした芸術劇場の理念に結びつけることができた。特に、超オペラペラペラコンサート「ラ・ボエーム」(スペシャルハイライト)公演では、児童合唱団と市民合唱団も出演し、一線で活躍するプロ歌手との共演を間近でみることで、優れた音楽作品が全ての人々に感動を与えることや、誰もが努力によって成果をあげ得ることに気付くことができた。				
課題・改善点	「ひとつづくり」「にぎわいづくり」「生きがいつくり」の理念の実現に向け、中長期的な事業展開が必要であることから、継続して実施する必要がある。また、感染症対策を講じながら、新たな分野も含めた公演等を実施することで、芸術劇場の認知度を向上させつつ「にぎわいづくり」を図っていく必要がある。				

【文化芸術課】

番号	2	事業名	芸術劇場自主文化(ひとつづくり)事業	事業費	36,687千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	文化創造プランを踏まえ、市民が優れた文化芸術に身近に参加・体験ができ、市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、「ひとつづくり」「にぎわいづくり」「生きがいつくり」の理念を掲げ、東海市芸術劇場において、様々な事業を実施する。				
実施内容	「東海市ひとつづくりパートナーシップ」を締結した公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団と吉本興業株式会社を中心に、次代の文化芸術を担う人材育成を中心とするひとつづくり事業を実施した。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、内容や日程等の変更を行った上での実施となった。 【公演】 ・東海児童合唱団定期演奏会、東海市子どものオーケストラ定期演奏会、TOKAI DANCE PROJECT、東海市民合唱団定期公演、劇場招待コンサート (市内全小学5年生、中学2年生)の6公演 (実入場者数 4,961 人、入場率 73.3%) 【ワークショップ等】				

番号	2	事業名	芸術劇場自主文化(ひとづくり)事業	事業費	36,687 千円
	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術劇場を拠点とする4団体(東海市子どものオーケストラ、東海市民合唱団、東海児童合唱団、東海市ダンスチームMiakot)(延べ参加者数14,727人) 【アウトリーチ】 ・出会いの教室(市内全小学校4年生、適応指導教室「ほっと東海」を対象に全40回実施)(延べ参加者数1,104人) ・よしもと流楽しいコミュニケーション(平洲小学校、加家公民館、三ツ池市民館で全4回実施)(延べ参加者数764人) ・ふれあいコンサート(市内福祉施設等で全3回実施予定)(延べ参加者数179人) ・おんがくさんはじめてコンサート(市内保育園で全6回実施予定)(延べ参加者数411人) 				
目標に対する評価	<p>ふれあいコンサートは、令和3年度(2021年度)は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、令和4年度(2022年度)は一部芸術劇場での開催ではあったものの、計3回実施することができ、日頃劇場へ足を運ぶことが困難な方に対しても文化芸術に触れる機会を提供することができた。</p>				
課題・改善点	<p>「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいつくり」の理念の実現には、中長期的な事業展開が必要であることから、引き続き芸術劇場を拠点として、感染症対策を講じながら、長期にわたり質の高い文化芸術を提供し、特に次世代の子どもたちが早期に文化芸術に親しむ環境をつくり、人材を育成し、市民主体の文化芸術の振興を図る必要がある。</p>				

施策17 郷土の歴史や文化を大切に継承する

単位施策17-1 伝統文化を大切に守る

【文化芸術課】

番号	1	事業名	子ども芸能発表会開催事業	事業費	650 千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	<p>子どもたちが日ごろ取り組んでいる文化活動等の成果を発表することで、経験と自信につなげ、文化活動の普及や伝統芸能の継承を図るとともに、夢を持つ心を育むことを目的とし、子ども芸能発表会を開催する。</p>				
実施内容	<p>市内の小中学校、公民館・市民館、文化協会、各地域で活動している子どもたちが、日ごろ取り組んでいる伝統芸能や文化活動を芸術劇場大ホールで発表し、出演団体の展示コーナーをホールロビーに設置</p>				

番号	1	事業名	子ども芸能発表会開催事業	事業費	650 千円
	<p>した。また、プロの公演として、「MIZ×片山義美×木佐貫あつひさ（東海市出身）」によるヴァイオリン・ギター・和太鼓の演奏を行った。 出演団体数 17 団体 出演者 298 人 来場者 1,357 人</p>				
目標に対する評価	<p>子どもたちによる日頃の練習成果の発表を、普段あまり経験することができない大きな舞台上で一堂に発表・鑑賞することができ、また、普段あまり接する機会の少ない団体（和の団体は洋の団体、洋の団体は和の団体）の演技を鑑賞することで子どもたちにとって良い刺激になり、達成感や自信に繋がり良い経験に繋がった。</p> <p>さらに、大ホールホワイエに各団体の活動紹介展示コーナーを設けることにより、出演団体の活動が分かるだけでなく、各地域で継承されている舞や、学校で受け継がれている伝統芸能等の紹介を行うことができた。</p> <p>また、プロの公演では、「MIZ×片山義美×木佐貫あつひさ（東海市出身）」によるヴァイオリン・ギター・和太鼓の演奏を聴くことで、心に響く貴重な体験となったこと、また、地元出身の出演者が夢を叶えて、活躍している姿を観てもらうことで、挫折をしても努力し続けることの大切さや、夢を叶えることの素晴らしさを伝えることができた。</p>				
課題・改善点	<p>コロナ禍ということもあり、例年より出演団体、出演者、来場者が減少となった。演目によっては、場面転換等の時間に差があり、公演時間が短縮してしまうことがあったため、来年度以降は、演目によって、場面転換時間等を設定する必要がある。また、例年どおりの出演団体数になった場合に、公演時間が延長しないよう、円滑に進行させるための工夫や、長時間の観覧が観客の負担にならないような方法を検討する必要がある。</p>				

単位施策 17-2 郷土の歴史と文化に親しむ

【社会教育課】

番号	1	事業名	文化財保存・普及事業	事業費	9,535 千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	<p>東海市の貴重な文化財を後世に引き継ぎ、文化財への関心を高めてもらうため、保存事業への補助及び普及事業を実施する。</p>				
実施内容	<p>文化財・埋蔵文化財(遺跡)の維持管理及び所有・管理者への補助事業を実施した。</p> <p>太田川駅周辺土地区画整理事業地内に所在する畑間遺跡について、令和2年度(2020年度)に実施した発掘調査の成果報告書を刊行した。</p> <p>市内で唯一残る城跡である木田城跡を広く一般に周知・啓発するた</p>				

番号	1	事業名	文化財保存・普及事業	事業費	9,535千円
	<p>め、標示看板を新たに設置した。</p> <p>太佐山高射砲陣地跡を紹介するパンフレットを作成した。</p> <p>文化財防火デーに合わせて、大田町里組山車蔵で文化財防火訓練を実施した。</p>				
目標に対する評価	<p>文化財等の維持管理及び所有・管理者への補助事業により適正な保存を図ることができた。</p> <p>畑間遺跡の発掘調査報告書を刊行し、貴重な埋蔵文化財の情報を記録保存することができた。</p> <p>木田城跡の普及啓発をとおして、史跡を訪れた人々の文化財への関心を高めることができた。</p> <p>太佐山高射砲陣地跡の紹介パンフレットを作成し、史跡を広く一般に周知することができた。</p> <p>また、文化財防火訓練を大田町里組山車蔵で実施し、貴重な文化財に対する防火意識の高揚に寄与した。</p>				
課題・改善点	<p>今後も文化財等の適正な保存を図るとともに、継続的に普及啓発を実施し、普及啓発事業の内容の検討をする。</p>				

【社会教育課】

番号	2	事業名	細井平洲顕彰事業	事業費	1,304千円
令和4年度(2022年度)の計画・目標	<p>細井平洲先生の嚶鳴の教えを生かした交流を進め、全国への情報発信、ふるさと東海市への愛着を深めるため実施する。</p>				
実施内容	<p>作家の童門冬二氏に平洲記念館名誉館長を委嘱し、ホームページに「童門冬二の平洲塾」を月1回紹介したり、全国誌「歴史街道」に記事掲載をしたりするなど細井平洲先生の遺徳を顕彰する事業を実施した。令和4年度(2022年度)については童門冬二氏の年齢を考慮し、講演会やビデオ講演の代替として、20歳の集いの参加者への配布を目的としたリーフレット作成をした。</p>				
目標に対する評価	<p>著名な作家童門冬二氏が平洲記念館名誉館長として、執筆活動等を通じて広報していただくことにより、細井平洲先生の遺徳を市内外に広く顕彰することができた。</p>				
課題・改善点	<p>今後も、童門冬二氏の指導及び助言により、細井平洲先生の遺徳を顕彰する事業を展開するとともに、平洲関係の講座等を引き続き実施する。また、嚶鳴広場(東海市芸術劇場内)で実施する事業と連携することで事業効果の拡大を検討する。</p>				

【社会教育課】

番号	3	事業名	嚶鳴広場各種講座等開催事業	事業費	3,119 千円
令和4年度 (2022年度)の 計画・目標	<p>嚶鳴広場において、童門冬二氏を顧問とし、細井平洲先生を始め全国各地の先人の教えや歴史をわかり易く発信するために、各種展示事業等を行うもの。</p> <p>常設展示だけではなく、特別展示を行うことにより広く情報発信すると共に、来場者に飽きのこない施設運営を図る。</p>				
実施内容	<p>嚶鳴広場における童門冬二氏の図書及び資料の展示や各種講演会、特別展示等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「童門冬二の嚶鳴講座」4回 ・特別展示2回（佐藤一斎の「言志四録」と細井平洲の「嚶鳴館遺草」等） ・企画展示2回（心に留めたい平洲先生の言葉等） 				
目標に対する 評価	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、童門冬二氏に直接東海市にお越しただいての講演会の実施はできなかったが、事前収録による映像の放映や童門氏監修の講師を招聘する等、細井平洲先生をはじめ全国各地の先人の教えや歴史に触れていただける機会を提供できた。</p>				
課題・改善点	<p>先人の教えや歴史を市民及び全国へ広く発信・顕彰するために、市民等のニーズに即した様々な展示、講演会、講座等を開催していく。</p>				